

II. 統計

1. 実績の概要

(1) 産科部門診療実績

産科部門については診療所、助産所を含む県内全ての分娩取扱医療機関にデータ提供を依頼し、県内の周産期医療の現状を把握できるようにしている。

対象医療機関は 11 病院、16 診療所、8 助産所となっている。集計項目に「入院数」も含んでいたが、産科疾患のみ集計、産婦人科疾患を集計等、集計数が医療機関毎に異なっているため下表には掲載していない。

本調査による 2016 年の総分娩数は 9,994 例であった。うち病院が 4,360 例で 43.6%、診療所が 5,418 例で 54.2%、助産所が 216 例で 2.2%となっている。

早産と言われる 37 週未満の分娩は 508 例で全体の 5.0%となっている。また低出生体重児は 860 例で 8.6%となっている。診療所でも 246 例(全低出生体重児のうちの 28.6%)の低出生体重児を扱っている。高年出産と言われる 35 歳以上での出産は 2,755 例であり、全体の 27.6%となっている。

合併症妊娠では子宮筋腫が最も多く 252 例となっている。産科合併症は切迫早産・前期破水が 1,329 例で最も多い。

		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	市立奈良	病院 (左5病院除く)	診療所	助産所	合計
分娩様式	総分娩数	950	521	261	439	532	1,657	5,418	216	9,994
	経膣分娩	582	324	181	375	367	1,314	4,563	216	7,922
	帝王切開	368	197	80	64	165	343	848	-	2,065
	うち予定	190	94	52	43	110	208	483	-	1,180
	うち緊急	178	103	28	21	55	135	364	-	884
	帝王切開率 (%)	38.7	37.8	30.7	14.6	31.0	20.7	15.7	-	20.7
分娩週数 (死産児は除く)	35週未満	67	71	11	3	-	2	3	-	157
	35週	15	32	4	4	-	7	14	-	76
	36週	62	40	11	15	24	34	89	-	275
	37週	174	125	31	29	65	201	438	-	1,063
	38週	225	96	70	107	145	351	1,133	10	2,137
	39週	220	101	56	98	158	509	1,714	43	2,899
	40週	177	69	54	135	115	430	1,513	69	2,562
	41週	64	23	21	30	24	118	489	84	853
42週	1	-	1	-	-	1	12	10	25	
出生体重 (死産児は除く)	1,500g未満	38	14	-	-	-	-	-	-	52
	1,500-1,999g	40	58	6	6	1	3	2	-	116
	2,000-2,499g	135	114	38	27	32	99	244	3	692
	2,500g以上	763	370	220	403	497	1,553	5,162	213	9,181

		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	市立奈良	病院 (左5病院除く)	診療所	助産所
出産時年齢	35歳未満	636	303	152	306	395	1,259	4,043	141
	35-39歳	240	151	78	109	112	331	1,171	67
	40-44歳	72	63	29	17	25	63	207	9
	45歳以上	2	4	2	1	0	2	-	-
合併症妊娠	子宮筋腫	36	42	16	15	23	16	103	1
	子宮筋腫(核出術後)	-	16	-	2	-	6	18	-
	卵巣嚢腫(腫瘍)	25	5	17	10	11	15	20	-
	子宮頸癌(含円錐切除後)	-	9	-	3	-	5	14	-
	子宮奇形	3	1	1	-	4	1	7	-
	甲状腺機能亢進症	9	12	1	11	4	7	12	-
	甲状腺機能低下症	17	14	8	4	9	15	22	-
	糖尿病(含GDM)	62	29	37	33	16	17	20	-
	喘息	28	9	12	8	23	7	28	-
	慢性腎炎	4	-	1	-	6	-	-	-
	本態性高血圧	13	5	-	-	1	-	-	-
	ITP	-	-	3	-	-	-	2	-
	自己免疫疾患	9	5	-	6	3	2	-	-
	循環器疾患	-	-	5	3	3	3	-	-
	精神科疾患(含てんかん)	43	20	3	7	2	8	13	-
ウイルス性肝炎 (HA, HB, HCなど)	5	-	3	2	3	2	9	-	
消化器疾患 (虫垂炎、潰瘍性大腸炎など)	20	8	11	-	4	10	2	-	
その他	-	-	-	7	4	4	1	-	
産科合併症 (重複あり)	切迫早産・前期破水	115	189	35	113	205	209	455	8
	妊娠高血圧症候群	51	57	11	14	9	30	77	-
	胎内胎児発育制限	28	39	15	3	24	6	38	-
	多胎妊娠	66	41	5	3	3	4	4	-
	前置胎盤	16	15	-	1	-	2	2	-
	産後出血	21	-	19	-	-	15	165	-
	弛緩出血	142	62	2	-	10	108	-	-
	常位胎盤早期剥離	18	7	2	1	-	4	12	-
	HELLP症候群	-	2	1	-	-	-	1	-
	低置胎盤	13	4	3	2	1	3	17	-
	血液型不適合	18	8	11	-	11	9	14	-
	羊水過多	7	2	5	-	2	7	33	-
	羊水過小	7	3	11	-	6	8	47	-
	胎児異常	36	4	8	-	6	15	6	-
	その他	-	-	-	5	-	-	13	1
産科手術他	子宮頸管縫縮術	12	1	1	10	14	5	4	-
	卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	-	2	1	1	-	8	2	-
	産道血腫除去術	-	3	3	-	-	-	6	-
	子宮動脈塞栓術	1	-	-	-	-	-	-	-
	子宮摘出術	2	-	-	1	-	3	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	1	-
輸血治療症例	9	25	9	2	1	3	8	-	

(2) 小児・新生児部門診療実績

小児・新生児部門については従来通り、奈良県立医科大学附属病院（奈良医大）、奈良県総合医療センター（県総合）、近畿大学医学部奈良病院（近大奈良）、天理よろづ相談所病院（天理よろづ）、市立奈良病院（市立奈良）からデータ集計を行った。

本調査による2016年の小児・新生児入院数は703例で、うち院内出生が545例、院外出生が158例であった。入院時疾患は呼吸器疾患が最も多く、276例であった。人工呼吸器管理症例数は181例で全体の25.7%であった。早期新生児死亡は5例、後期新生児死亡は1例で、死亡症例の詳細は下表のとおりである。新生児搬送症例数は136例で、搬送疾患名は呼吸器疾患が68例と最も多い。

(例)

施設名		奈良医大	県総合	近大奈良	天理よろづ	市立奈良	合計
入院数	院内出生	195	135	58	107	50	545
	院外出生	56	68	30	4	-	158
入院時疾患名	呼吸器疾患	28	101	20	111	16	276
	心・循環器疾患	13	5	3	72	-	93
	消化管疾患	10	6	12	3	4	35
	脳・神経疾患	8	2	3	1	-	14
	外科疾患	-	-	6	1	-	7
	染色体異常 奇形症候群	17	-	6	1	-	24
	感染症	4	5	3	35	4	51
その他	165	-	35	29	26	255	
人工呼吸器管理症例	入院数	251	203	88	111	50	703
	人工呼吸器管理症例数	94	67	16	4	0	181
	人工管理症例率 (%)	37.5	33.0	18.2	3.6	0.0	25.7
早期新生児死亡数		4	-	1	-	-	5
後期新生児死亡数		1	-	-	-	-	1
新生児搬送収容数		40	68	24	4	-	136
新生児搬送疾患名 (重複あり)	呼吸器疾患	17	36	12	3	-	68
	心・循環器疾患	7	3	2	3	-	15
	消化管疾患	1	3	6	-	-	10
	脳神経疾患	1	1	-	-	-	2
	染色体異常 奇形症候群	4	1	1	-	-	6
	感染症	1	3	-	1	-	5
その他	6	21	9	-	-	36	

死亡例一覧

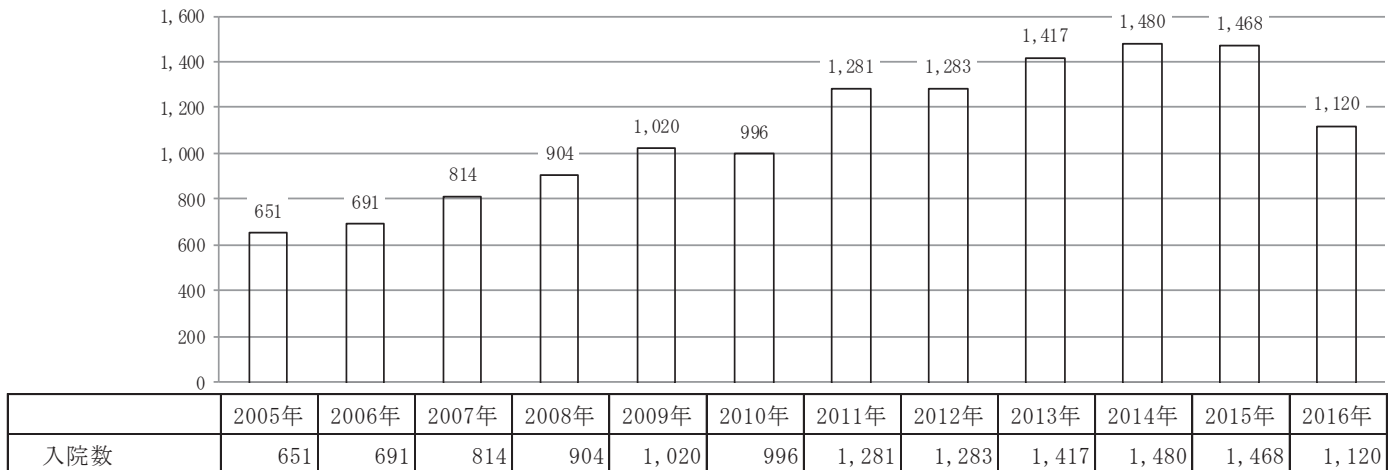
	性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
奈良医大	男	22週3日	478g	0日	超低出生体重児
	男	22週1日	506g	37日	超低出生体重児 脳室内出血 小腸閉鎖
	女	22週5日	528g	0日	超低出生体重児 新生児仮死
	男	23週2日	470g	1日	超低出生体重児 肺低形成
	女	27週5日	1,018g	5日	極低出生体重児 新生児仮死
	男	29週1日	800g	98日	超低出生体重児 ダウン症 胆汁鬱滞性肝障害
	女	32週1日	1,416g	16日	極低出生体重児 新生児仮死
	女	40週0日	1,764g	95日	10番染色体不均衡転座 心室中隔欠損症
男	40週4日	3,162g	152日	13トリソミー 大動脈弓離断 大動脈肺動脈中隔欠損	
県総合	女	35週6日	2,078g	82日	肺高血圧症
近大	男	35週	2,212g	5日	13トリソミー

2. 奈良県立医科大学附属病院

(1) 産科部門診療実績

◆ 入院数 (例)

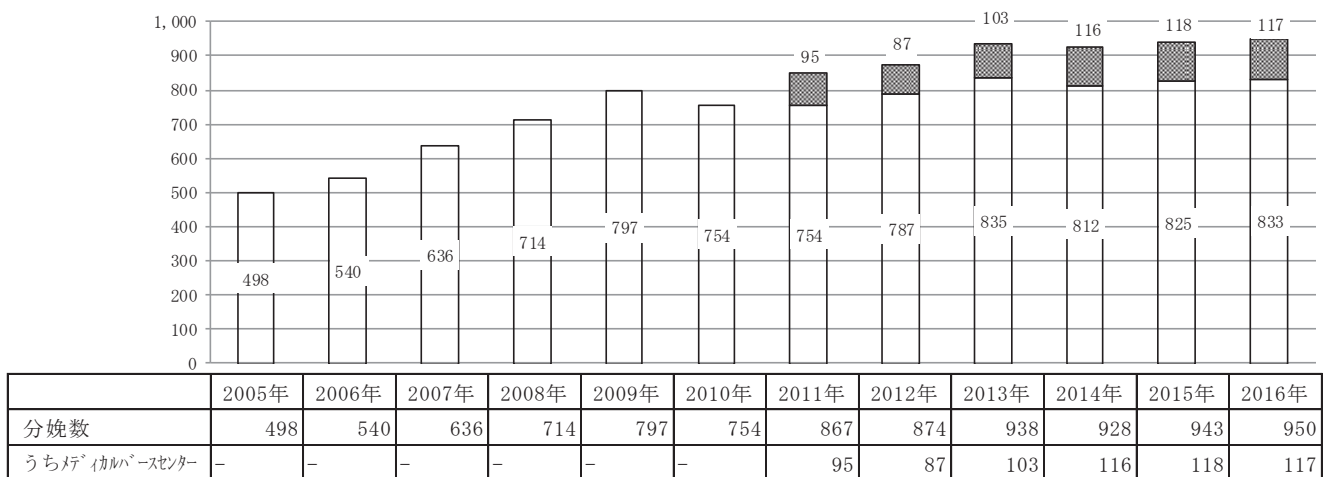
2016年の奈良医大附属病院産科病棟への入院患者数は2015年に比べやや減少した。



◆ 分娩数 (例)

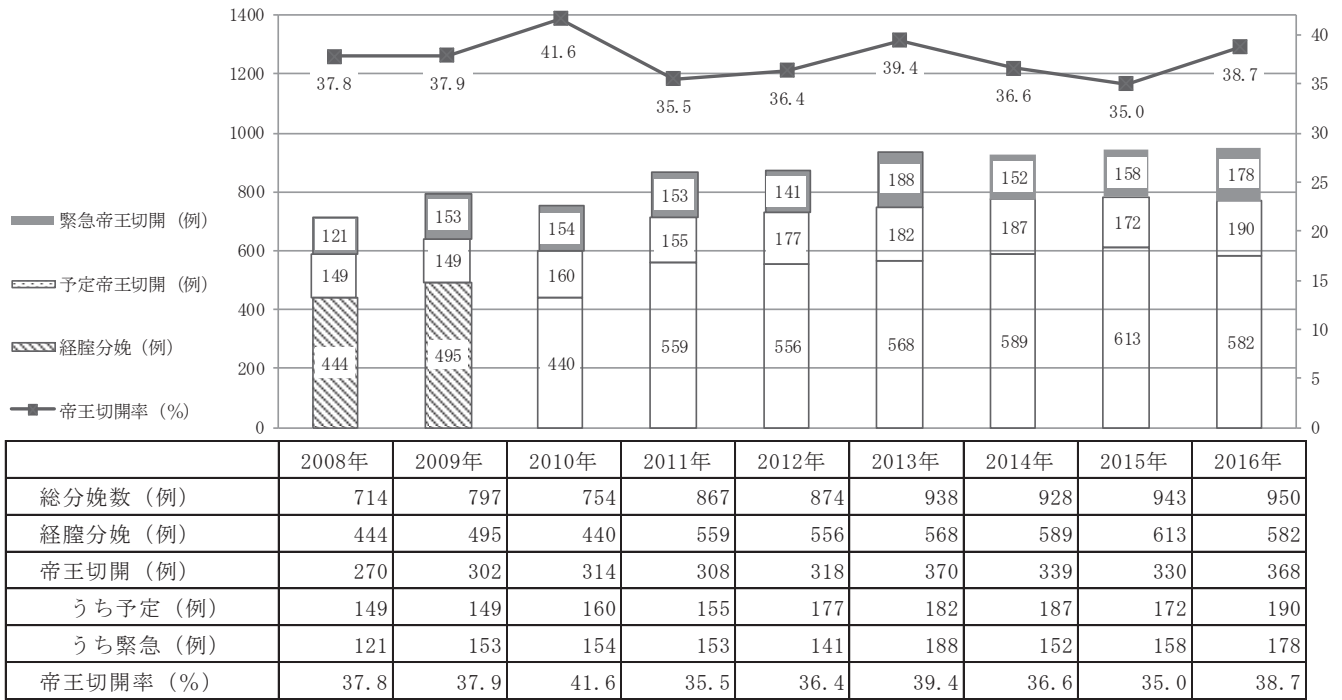
2016年の奈良医大附属病院の分娩数は過去40年間で最高となった。妊婦の高齢化に伴うハイリスク分娩の増加、また地域の産婦人科医による早期からのハイリスク診断の向上が影響している可能性がある。

また、正常分娩を担当するため設置されたメディカルバースセンターでの分娩数は年100件程度で横ばいであり、このことからハイリスク分娩の当院への集中が分娩数増の原因であると考えられる。



◆ 分娩様式

分娩方法については大きな変化はない。40%を超えない帝王切開率は総合周産期センターとしては平均的か、やや低い程度である。帝王切開については麻酔科・中央手術部の絶大なサポートにより、24 時間体制で超緊急帝王切開に至るまでいつでも開始することができている。



◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

分娩週数について、母体合併症例などでの 37 週での娩出が増えたことが特徴である。28 週以前での娩出も前年と同程度あり、県下での担当週数をおおむね 28 週以下は当院、それ以上はできるだけ奈良県総合医療センター (当時は県立奈良病院) と振り分ける方針が定着してきたと言える。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
22週	2	2	1	-	-	-	2	3	1
23週	3	-	-	1	2	2	1	2	1
24週	2	-	3	2	-	2	3	5	2
25週	3	3	-	2	1	4	1	1	2
26週	4	4	6	1	-	1	5	2	3
27週	4	10	3	1	3	2	3	2	1
28週	2	3	5	7	5	5	4	8	4
29週	1	4	8	4	7	4	4	2	6
30週	5	5	5	6	3	3	3	4	3
31週	4	11	9	13	5	4	7	6	7
32週	11	19	10	11	9	16	7	9	8
33週	12	15	18	9	14	20	11	10	8
34週	15	23	20	14	21	22	8	10	21
35週	31	30	38	39	30	33	24	33	15
36週	65	55	41	59	54	54	41	77	62
37週	57	56	110	105	115	106	156	159	174
38週	151	182	150	159	198	246	208	209	225
39週	145	137	153	191	167	172	202	182	220
40週	150	162	112	157	172	183	168	203	177
41週	54	75	57	68	54	45	51	58	64
42週	3	1	5	3	1	-	-	4	1
不明	-	-	-	-	2	3	-	5	2

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

出生体重について、超低出生体重児が増えている。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
500g未満	4	2	2	-	3	-	5	7	3
500-999g	14	17	12	12	11	19	15	19	15
1,000-1,499g	15	20	26	26	16	27	25	13	20
1,500-1,999g	54	62	74	58	57	60	45	48	40
2,000-2,499g	143	219	148	155	129	165	136	137	135
2,500g以上	546	521	537	666	690	732	748	770	763

◆ 出産時年齢（例）

出産時年齢について大きな変化はなく、生殖補助技術の発展により、45歳を超える超高齢での出産も数例あった。

2013年12月から当院では母体血を用いた非侵襲的出生前診断（NIPT）を行っており、35歳以上の妊婦で希望する方は受検することができる。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
35歳未満	593	632	644	610	636
35-39歳	212	239	225	250	240
40-44歳	68	64	56	79	72
45歳以上	1	3	4	4	2

◆ 合併症妊娠（例）

合併症妊娠の内訳には大きな変化はない。この数年間は登録システムの変革期にあることもあり、記載上の症例数に変動する可能性があることをお詫びしたい。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
子宮筋腫	-	-	-	-	-	69	52	49	36
子宮筋腫（核出術後）	29	36	37	32	49	16	6	5	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	5	10	8	15	8	26	22	25	25
子宮頸癌（含円錐切除後）	5	4	7	11	7	9	7	9	-
子宮奇形	5	4	4	7	4	4	2	4	3
甲状腺機能亢進症	13	11	7	13	18	17	8	14	9
甲状腺機能低下症	7	6	6	11	6	11	17	14	17
糖尿病（含GDM）	23	12	15	31	28	39	45	54	62
喘息	15	11	14	24	26	49	19	25	28
慢性腎炎	6	6	7	5	7	3	1	12	4
本態性高血圧	9	6	4	12	9	16	12	12	13
ITP	5	4	6	7	5	9	-	-	-
自己免疫疾患	6	10	6	17	12	11	14	10	9
循環器疾患	8	10	10	15	14	8	17	14	-
精神科疾患（含てんかん）	26	35	29	48	43	58	47	49	43
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	7	11	7	14	10	6	9	11	5
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	8	6	5	17	6	8	13	12	20

H25:筋腫に核出術後含む

◆ 産科合併症（例 重複あり）

産科合併症については大きな変化はない。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
切迫早産・前期破水	139	165	182	188	164	151	131	109	115
妊娠高血圧症候群	53	73	69	66	52	51	49	49	51
胎内胎児発育制限	43	59	64	51	51	36	45	31	28
多胎妊娠	69	58	56	60	46	76	56	51	66
前置胎盤	20	21	26	27	28	20	14	21	16
産後出血	18	17	17	30	23	12	24	10	21
弛緩出血	-	-	-	-	-	-	-	-	142
常位胎盤早期剥離	9	13	9	23	11	9	15	10	18
HELLP症候群	4	3	3	5	8	4	6	4	-
低置胎盤	14	12	16	19	12	15	12	6	13
血液型不適合	11	12	9	20	20	27	11	12	18
羊水過多	6	5	9	11	11	8	8	7	7
羊水過小	4	7	5	8	6	9	14	9	7
胎児異常	36	34	50	56	53	25	28	-	36

※弛緩出血についてはH27年以前は未集計

◆ 産科手術他（例）

産科手術については大きな変化はない。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
子宮頸管縫縮術	13	12	7	7	15	11	8	14	12
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	5	6	5	5	5	1	1	3	-
産道血腫除去術	4	5	4	9	1	5	8	1	-
子宮動脈塞栓術	3	5	6	6	6	8	5	3	1
子宮摘出術	2	2	2	2	-	3	4	4	2
胎児胸腹水穿刺	1	3	4	5	1	-	-	-	-
羊水除去	1	1	2	4	2	-	-	-	-

◆ 輸血治療症例（例）

輸血治療については大きな変化はない。当院では輸血について十分なストックがあり、不足分については血液センターからの取り寄せについても輸血部から即時依頼を行っていただける。下記の症例数は同種血輸血のみであり、自己血輸血は含まない。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
輸血治療症例数	15	12	12	34	19	20	22	9	9

◆ NICU 収容症例数（例）

NICU 症例数についてはここ数年漸増している。2016 年の病棟移転に伴い、症例数が大きく増加した。周産期のキャパシティを決定づけるのはこれまで以上に新生児科の要因が大きくなることが明らかであり、スタッフの増員とさらなる手当が必須である。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
NICU収容症例数	115	140	151	128	111	147	131	160	251

◆ 多胎妊娠（例）

多胎妊娠数については、生殖補助医療（ART：体外受精など）による双胎が学会による受精卵移植数制限の会告以降、増加に歯止めがかかっていることに影響されていると考えられるものの、2016 年は前年と比べ増加している。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
双胎	66	57	56	59	43	75	56	50	65
うちMD	26	20	18	34	15	24	19	37	20
うちDD	40	37	38	25	28	51	37	11	45
うち不明	-	-	-	-	-	-	-	2	-
三胎	3	1	-	1	-	1	-	1	1

◆ 母体搬送収容数（例）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

2014 年以降はそれまでに比べて減少しているが、搬送の応需率には変動がないことと、後述の MFICU 収容数（微減程度である）の内訳から、院内他院から各症例について早期に外来レベルで紹介されることが大きな要因であると推定できる。母体救命のための搬送は病床の状況を問わず全例収容している。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
母体搬送収容数	83	130	153	146	157	156	107	125	106

◆ 母体搬送疾患名（例 重複あり）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

母体搬送疾患の内訳については見かけ上変化が見られるが、実数ではそれほどの差異はない。これは2013年からシステムでの集計を用いており（医師による確認は行っている）、2014年からは代表的な疾患名を選択しているため、それ以前の集計と差があるためである。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
切迫早産・前期破水	48	68	89	75	77	87	49	56	44
妊娠高血圧症候群	12	17	27	17	22	13	7	10	5
胎内胎児発育制限	6	11	16	5	15	7	1	3	3
産後出血	11	10	11	15	15	6	16	12	12
胎児機能不全	10	10	12	9	15	8	2	1	4
常位胎盤早期剥離	5	10	4	14	9	11	8	8	7
前置胎盤	3	5	6	2	7	5	2	5	1
多胎	1	4	5	3	2	11	2	4	1
HELLP症候群	3	3	3	2	6	3	4	3	1
胎児奇形	2	3	6	1	1	-	3	1	1
その他	13	18	22	17	13	61	13	22	30

◆ 胎児異常（例）

胎児異常の例数については大きな変化はない。

疾患名	2012年		2013年		2014年		2015年		2016年	
	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断	症例数	胎内診断
cystic hygroma	4	4	1	1	4	4	6	6	3	3
18トリソミー	3	2	3	2	-	-	3	3	4	3
髄膜瘤	2	2	1	1	-	-	3	2	1	1
21トリソミー	6	3	4	-	7	5	3	1	4	2
手指異常（合指／多指）	-	-	2	-	1	-	3	-	2	-
脳室拡大	2	2	5	5	6	6	2	2	2	2
先天性横隔膜ヘルニア	1	1	-	-	1	1	2	2	-	-
心室中隔欠損	3	1	1	1	2	1	2	1	5	2
仙尾部奇形腫	1	1	-	-	1	1	1	1	-	-
胎児水腫	1	1	-	-	-	-	1	1	1	1
骨系統性疾患	1	1	3	2	-	-	1	1	1	1
小腸閉鎖	1	1	-	-	-	-	1	1	1	1
無頭蓋症	1	1	-	-	-	-	1	1	1	1
尿道下裂	-	-	2	1	3	-	1	-	-	-
口唇裂・口蓋裂	3	2	3	2	1	1	-	-	5	5
不整脈	3	3	4	4	1	1	-	-	-	-
胸腹水	3	3	1	1	1	1	-	-	-	-
無脳症	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-
ファロー四徴症	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
水腎症	2	2	-	-	1	1	-	-	-	-
両大血管右室起始	2	2	1	1	-	-	-	-	1	1
大血管転位	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鎖肛	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-
心臓腫瘍	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-
十二指腸閉鎖	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-
先天性嚢胞性腺腫様奇形	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-
Dandy-Walker奇形	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
大脳半球間裂嚢胞	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
卵巣嚢腫	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
脳瘤	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
気管軟化症	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-
尿道閉鎖	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Treacher-Collins症候群	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全前脳胞症	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
総排泄腔遺残	-	-	1	1	-	-	-	-	1	1
腹壁破裂	-	-	1	1	2	2	-	-	2	2
筋ジストロフィー	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
染色体微小欠失	-	-	2	1	-	-	-	-	1	-
片腎欠損	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
Potter sequence	-	-	1	1	1	1	-	-	1	1
食道閉鎖	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
脳梗塞	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
尿管遺残	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
無眼球症	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
脳梁欠損	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1
大動脈離断症	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
大動脈縮窄	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
硬膜下血腫	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
血管腫	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
脳腫瘍	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
脳出血	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-

◆ MFICU 入院患者数（例）

MFICU 入院患者数については若干の減少があった。とくに母体搬送例が減少し、院内で外来から収容される例には変化がない。これは県内他院（とくに開業医）から早期に診断されて当院に外来レベルで紹介される症例が増加しているためであるが、他方、切迫早産例・妊娠高血圧症候群例・重度の胎児発育遅延例など、母体搬送すべきと考えられる例も外来紹介されることがあり、どちらの方が良いか今後も検討していく必要がある。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
院内症例	53	68	46	66	49	38	64	37	37
搬送症例	42	99	142	125	142	141	97	112	83
合計	95	167	188	191	191	179	161	149	120

◆ MFICU 入院適応（例）

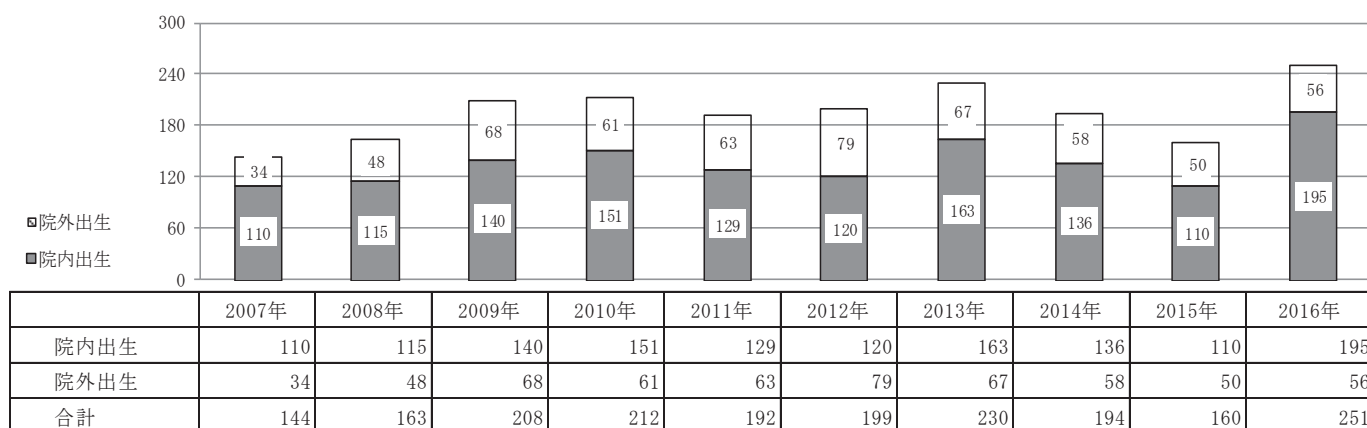
MFICU の入院適応については大きな変化がない。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
切迫早産	40	88	99	81	82	89	66	63	56
妊娠高血圧症候群	18	28	30	35	31	24	16	14	21
産後出血	7	13	14	23	20	18	25	11	18
常位胎盤早期剥離	2	8	5	19	8	11	13	11	9
胎内胎児発育不全	9	15	18	15	19	12	2	8	10
前置胎盤	7	13	17	14	11	13	8	10	8
双胎	6	12	8	7	4	15	10	6	8
HELLP症候群	2	3	3	5	8	4	4	4	3
胎児異常	6	4	4	2	3	5	6	2	3
肺水腫	5	2	3	2	3	3	-	-	2
合併症妊娠	5	13	20	25	36	18	5	6	5
その他	10	7	5	3	3	3	-	17	12

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)

2016年の総入院数は251例(うち再入院6例)で、院内出生が195例、院外出生56例であった。2016年9月から新病棟移転に伴い、病床数が増加したことにより、入院数も増加した。



◆ 入院時疾患名 (例)

入院の適応となった疾患で最も多いのが低出生体重児(70例)で、ついで極低出生体重児(24例)、超低出生体重児(19例)、高ビリルビン血症(17例)、が多かった。2016年9月から新病棟移転に伴い、病床数が増加し、産科病棟での新生児入院を取り扱わなくなったことにより、低出生体重児、高ビリルビン血症、母体甲状腺機能異常から出生した児、薬物離脱症候群の入院数が増加した。

	2012	2013	2014	2015	2016
呼吸器疾患	39	38	40	38	28
新生児一過性多呼吸	29	21	22	20	15
呼吸窮迫症候群	1	1	4	4	-
胎便吸引症候群	3	2	1	1	6
羊水大量吸引症候群	-	-	-	-	-
新生児無呼吸発作	1	7	5	4	1
気胸	-	2	3	3	4
先天性横隔膜ヘルニア	2	-	2	3	-
先天性横隔神経麻痺	1	-	-	-	-
縦隔気腫	1	1	-	-	-
心嚢気腫	-	1	-	-	-
先天性乳び胸	-	1	-	1	1
声門下狭窄	-	1	-	-	-
CCAM	-	1	-	-	-
披裂部喉頭軟化症、気管軟化症	1	-	-	-	-
出血性肺浮腫	-	-	2	1	1
肺リンパ嚢胞	-	-	1	-	-
間質性肺炎	-	-	-	1	-

	2012	2013	2014	2015	2016
脳・神経疾患	6	11	12	3	8
脳梗塞	-	1	-	-	-
髄膜瘤	1	1	1	2	1
脳室拡大	-	2	-	-	-
頭蓋内出血	1	1	-	-	-
帽状腱膜下血腫	-	1	-	1	1
新生児痙攣	-	2	-	-	3
筋緊張性ジストロフィー	-	3	-	-	-
硬膜下血腫	-	-	3	-	-
脊髄脂肪腫	-	-	2	-	-
てんかん	-	-	2	-	-
脈絡叢乳頭癌	-	-	1	-	-
脳梁欠損	1	-	1	-	-
水頭症	-	-	1	-	3
頭蓋骨早期癒合症	1	-	-	-	-
低酸素性虚血性脳症	1	-	-	-	-
二分脊椎	1	-	-	-	-
Dandy-Walker症候群	-	-	1	-	-

次ページへつづく

		2012	2013	2014	2015	2016
心・循環器疾患		12	5	10	5	13
内訳	大動脈肺動脈窓	-	1	-	-	-
	左心低形成	1	1	1	-	-
	左室緻密化障害	-	-	1	-	-
	WPW症候群	-	1	-	-	-
	不整脈	1	1	-	-	1
	VSD ASD	-	1	-	-	-
	大動脈縮窄症	-	-	2	1	1
	Fallot四徴症	3	-	2	-	1
	心室中隔欠損	-	-	1	-	2
	先天性動脈管開存症	-	-	1	1	-
	動脈管動脈瘤	1	-	-	-	-
	総肺静脈還流異常症	-	-	-	-	1
	両大血管右室起始	2	-	1	-	2
	完全大血管転位	3	-	-	-	1
	心房粗動	-	-	1	-	-
	心房頻拍	1	-	-	-	-
	Ebstein奇形	-	-	-	-	2
	血管輪	-	-	-	2	-
	右側相同	-	-	-	1	-
	左側相同	-	-	-	-	1
内臓逆位	-	-	-	-	1	
染色体異常 奇形症候群		16	17	9	12	17
内訳	Down症候群	5	5	2	3	6
	18トリソミー	1	2	-	1	-
	13トリソミー	-	1	-	-	2
	5p-症候群	1	-	-	-	1
	22q11.2症候群	-	-	-	-	1
	18番染色体部分欠損	1	-	-	-	-
	10番染色体不均衡転座	-	-	-	-	1
	口唇口蓋裂	1	2	1	1	-
	GRE1Cephalopolysyndactyly syndrome	-	1	-	-	-
	Jaricot-Levine syndrome	-	1	-	-	-
	Juberg-Hayward syndrome□	-	1	-	-	-
	Trecher Collins	1	-	-	-	-
	Prader-Willi症候群	-	-	1	1	1
	コステロ症候群	-	-	-	1	-
	noonan症候群	-	-	-	1	-
	タウンズブロックス症候群	-	-	-	-	1
	奇形症候群	-	2	-	-	-
	仙骨部皮膚洞	-	1	-	-	-
	傍尿道のう腫	-	1	-	-	-
	結節性硬化症	-	-	1	-	-
	尿道下裂	-	-	1	1	-
	低形成異形成腎	-	-	1	-	-
	多嚢胞性異形成腎	-	-	-	-	2
	左反張膝	-	-	1	-	-
	仙尾部奇形腫	1	-	1	-	-
	タナトフォリック骨異形成症	-	-	-	1	-
	多発性関節脱臼・拘縮症	2	-	-	-	-
	脳肋骨下顎症候群	1	-	-	-	-
	小顎症	1	-	-	1	1
	先天性魚鱗癬	1	-	-	-	-
	尿管遺残症	-	-	-	1	-
	陰核肥大	-	-	-	-	1

		2012	2013	2014	2015	2016
消化管疾患		12	11	20	8	10
内訳	新生児嘔吐症	4	4	9	1	2
	哺乳不良	1	-	-	-	1
	腸回転異常症	-	1	1	-	1
	鎖肛	1	3	2	1	-
	新生児メレナ	1	1	1	2	-
	Hirshsprung病	-	1	2	2	-
	腹壁破裂	-	1	1	-	1
	臍帯ヘルニア	-	-	-	-	2
	臍尿瘻	-	-	1	-	-
	肛門異所性開口	-	-	1	-	-
	血便	2	-	-	-	-
	胃軸捻転	1	-	1	-	-
	急性胃粘膜病変	-	-	1	-	-
	食道閉鎖	-	-	-	-	1
	小腸十二指腸閉鎖	1	-	-	-	-
小腸閉鎖	-	-	-	1	2	
ミルクアレルギー	1	-	-	1	-	
感染症		6	2	2	3	4
内訳	新生児感染症	6	2	2	-	2
	新生児TTS様発疹症	-	-	-	1	-
	先天性サイトメガロウイルス感染症	-	-	-	1	2
細菌性髄膜炎	-	-	-	1	-	
その他		106	141	96	89	165
内訳	低出生体重児(1,500-2,499g)	46	78	33	38	70
	極低出生体重児(1,000-1,499g)	19	24	23	11	24
	超低出生体重児(<1,000g)	17	22	22	20	19
	早産児	3	2	1	-	-
	新生児仮死	12	7	8	8	15
	sleeping baby□	-	-	-	2	1
	新生児高ビリルビン血症	2	3	5	-	17
	新生児臍炎	-	-	-	1	-
	新生児Basedow病	-	2	-	-	1
	リンパ管腫	-	-	-	1	-
	一過性甲状腺機能低下症	-	-	1	-	2
	胎児母体間輸血症候群	-	1	1	-	-
	血友病Bの疑い	-	1	-	-	-
	Upshaw-Schulman症候群	-	-	1	-	-
	ホモシチン尿症	-	-	1	-	-
	低血糖症	2	-	-	2	3
	高インスリン性低血糖	-	-	-	1	-
	ABO血液型不適合溶血	-	-	-	2	-
	球状赤血球症	-	-	-	1	1
	先天性血管拡張性大理石様皮斑	-	-	-	1	-
	ビルリッ酸脱水素酵素複合体欠損	1	-	-	-	-
	右ソケイ部皮膚欠損	1	-	-	-	-
	左耳出血	1	-	-	-	-
新生児月経	1	-	-	-	-	
未受診妊婦からの出生	1	-	-	-	-	
新生児薬物離脱症候群	-	-	-	-	8	
墜落分娩	-	1	-	1	4	

◆ 出生週数（例）

出生時週数別の入院数は在胎 28 週未満で出生した児は 13 例で減少、28 週以上 36 週未満は 62 例で前年とほぼ同数であった。

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
22週	-	3	2	1	-	-	-	2	1	3
23週	-	3	1	-	1	3	3	2	1	2
24週	2	3	-	3	2	-	3	4	6	3
25週	1	3	3	-	2	2	4	3	1	2
26週	5	6	5	6	1	-	2	5	1	3
27週	2	4	10	3	2	5	2	4	3	2
28週	2	1	5	8	6	5	6	6	7	5
29週	2	2	3	8	3	7	5	4	2	6
30週	9	3	5	4	5	3	7	3	4	5
31週	7	5	11	9	16	6	5	8	6	7
32週	12	8	19	13	13	9	18	8	8	10
33週	13	12	15	20	10	15	27	15	10	8
34週	16	16	24	22	15	24	28	8	11	22
35週	13	15	15	10	15	9	17	13	14	12
36週	7	11	10	9	14	18	14	15	13	20
37週以上	53	68	80	95	87	93	84	89	70	135

◆ 出生時体重（例）

出生時体重別の入院数は 1000 g 未満が 20 例で前年と同数、1000 g 以上 1500 g 未満が 24 例で増加した。

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
500g未満	1	4	2	2	-	3	-	5	1	3
500-749g	5	7	8	7	5	4	10	9	10	8
750-999g	6	9	13	6	7	10	13	8	9	9
1,000-1,249g	8	7	9	12	8	9	12	7	3	9
1,250-1,499g	16	7	10	13	18	10	16	16	10	15
1,500-1,749g	17	16	31	30	24	18	21	14	14	14
1,750-1,999g	21	23	27	33	19	23	33	14	18	26
2,000-2,249g	13	16	19	15	21	18	21	10	16	24
2,250-2,499g	11	13	16	20	15	22	26	21	15	31
2,500g以上	46	61	73	74	75	82	73	85	62	106

◆ 人工呼吸器管理症例

2016 年の人工呼吸管理症例数は 94 例とほぼ横ばいで、例年約 100 名前後の症例が人工呼吸管理を行っている。

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
入院数（例）	144	163	208	212	192	199	230	194	160	251
人工呼吸器管理症例数（例）	55	73	98	105	85	97	99	105	91	94
人工管理症例率（％）	38.2	44.8	47.1	49.5	44.3	48.7	43.0	54.1	56.9	37.5

◆ 外科疾患（心臓、眼科、脳外科など含む）

手術症例は24例で、消化器外科疾患(10例)が最も多く、次いで心臓血管外科(8例)、レーザー光凝固術(6例)、脳神経外科疾患(6例)であった。小児心臓血管外科の再開に伴い、心臓手術症例が増加した。

性別	出生週数	出生体重	疾患名	術式
女	23週	563g	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
女	24週	754g	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
女	24週	590g	超低出生体重児 動脈管開存症	動脈管クリッピング術
女	24週	600g	超低出生体重児 出血後水頭症 動脈管開存症 未熟児網膜症	脳室外ドレナージ術 動脈管クリッピング術 レーザー光凝固術
男	25週	664g	超低出生体重児 出血後水頭症 未熟児網膜症	脳室外ドレナージ術 レーザー光凝固術
女	26週	871g	超低出生体重児 出血後水頭症 動脈管開存症 未熟児網膜症	脳室外ドレナージ術 動脈管クリッピング術 レーザー光凝固術
女	27週	855g	超低出生体重児 未熟児網膜症	レーザー光凝固術
女	28週	970g	超低出生体重児 動脈管開存症	動脈管クリッピング術
女	33週	1,956g	多嚢胞腎 鎖肛	人工肛門造設術 腎盂瘻造設 カテーテル腹腔内留置術
男	34週	2,274g	小腸閉鎖	小腸吻合術
男	35週	2,536g	先天性水頭症	脳室腹腔内シャント術
男	36週	1,496g	食道閉鎖	胃瘻造設 食道吻合術
女	36週	2,316g	脊髄髄膜瘤 水頭症 内反足	髄膜瘤修復術 脳室腹腔内シャント術 アキレス腱離断術
男	37週	1,862g	タウンズブロックス症候群 鎖肛	肛門造設術
女	37週	1,982g	腹壁破裂 低出生体重児	腹壁閉鎖術
女	37週	2,956g	大動脈弓縮窄 心室中隔欠損 22q11.2欠失症候群	大動脈弓形成術 心室中隔欠損閉鎖術
男	37週	2,470g	小腸閉鎖	小腸吻合術
男	37週	2,742g	大動脈弓縮窄	大動脈弓形成術
女	38週	2,838g	臍帯ヘルニア 心房中隔欠損	ヘルニア修復術 心房中隔欠損閉鎖術
男	38週	3,062g	小顎症	気管切開術
男	39週	3,576g	先天性サイトメガロウイルス感染症	脳室腹腔内シャント術
女	39週	3,192g	臍帯ヘルニア	ヘルニア修復術
男	39週	2,906g	大血管転位	バルーン心房中隔裂開術 大血管転位修復術
女	40週	3,452g	腸回転異常	Ladd手術

◆ 血液浄化症例

血液浄化の症例はダウン症に伴う一過性骨髄異常増殖症の1例のみであった。

出生週数	出生体重	適応疾患	治療法
37週0日	2,376g	一過性骨髄異常増殖症 ダウン症	全血交換輸血

◆ 出生週数別の日齢28日以後の生存数（例）

2016年は22週23週の生存率が低かった。

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）
22週	-（- / -）	100.0（2 / 2）	100.0（1 / 1）	33.3（1 / 3）
23週	100.0（3 / 3）	100.0（2 / 2）	0.0（0 / 1）	50.0（1 / 2）
24週	66.7（2 / 3）	100.0（4 / 4）	100.0（6 / 6）	100.0（3 / 3）
25週	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）	100.0（1 / 1）	100.0（2 / 2）
26週	100.0（2 / 2）	80.0（4 / 5）	100.0（1 / 1）	100.0（3 / 3）
27週	50.0（1 / 2）	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）	50.0（1 / 2）
28週	100.0（6 / 6）	83.3（5 / 6）	85.7（6 / 7）	100.0（5 / 5）
29週	100.0（5 / 5）	100.0（4 / 4）	100.0（2 / 2）	100.0（6 / 6）
30週	100.0（7 / 7）	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）	100.0（5 / 5）
31週	100.0（5 / 5）	100.0（8 / 8）	100.0（6 / 6）	100.0（7 / 7）
32週	94.4（17 / 18）	100.0（8 / 8）	100.0（8 / 8）	90.0（9 / 10）
33週	100.0（27 / 27）	100.0（15 / 15）	100.0（10 / 10）	100.0（8 / 8）
34週	100.0（28 / 28）	100.0（8 / 8）	100.0（11 / 11）	100.0（22 / 22）
35週	100.0（17 / 17）	100.0（13 / 13）	100.0（14 / 14）	100.0（12 / 12）
36週	100.0（14 / 14）	100.0（15 / 15）	92.3（12 / 13）	100.0（20 / 20）
37週以下	97.6（82 / 84）	98.9（88 / 89）	98.6（69 / 70）	100.0（135 / 135）

内訳：各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

◆ 出生体重別の日齢28日以後の生存数（例）

2016年は超低出生体重児の生存率が低かった。

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）
500g未満	-（- / -）	60.0（3 / 5）	100.0（1 / 1）	33.3（1 / 3）
500-749g	90.0（9 / 10）	100.0（9 / 9）	80.0（8 / 10）	87.5（7 / 8）
750-999g	92.3（12 / 13）	100.0（8 / 8）	100.0（9 / 9）	100.0（9 / 9）
1,000-1,249g	100.0（12 / 12）	100.0（7 / 7）	100.0（3 / 3）	88.9（8 / 9）
1,250-1,499g	93.8（15 / 16）	100.0（16 / 16）	100.0（10 / 10）	93.3（14 / 15）
1,500-1,749g	100.0（21 / 21）	100.0（14 / 14）	92.9（13 / 14）	100.0（14 / 14）
1,750-1,999g	100.0（33 / 33）	100.0（14 / 14）	100.0（18 / 18）	100.0（26 / 26）
2,000-2,249g	95.2（20 / 21）	100.0（10 / 10）	100.0（16 / 16）	100.0（24 / 24）
2,250-2,499g	100.0（26 / 26）	95.2（20 / 21）	100.0（15 / 15）	100.0（31 / 31）
2,500g以上	98.6（72 / 73）	100.0（85 / 85）	98.4（61 / 62）	100.0（106 / 106）

内訳：各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

◆ 新生児死亡数（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	2	2	3	4
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	3	1	-	1

◆ 死亡例一覧

2016年は超低出生体重児と極低出生体重児の死亡例が多かった。

性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
男	22週3日	478g	0日	超低出生体重児
男	22週1日	506g	37日	超低出生体重児 脳室内出血 小腸閉鎖
女	22週5日	528g	0日	超低出生体重児 新生児仮死
男	23週2日	470g	1日	超低出生体重児 肺低形成
女	27週5日	1,018g	5日	極低出生体重児 新生児仮死
男	29週1日	800g	98日	超低出生体重児 ダウン症 胆汁鬱滞性肝障害
女	32週1日	1,416g	16日	極低出生体重児 新生児仮死
女	40週0日	1,764g	95日	10番染色体不均衡転座 心室中隔欠損症
男	40週4日	3,162g	152日	13トリソミー 大動脈弓離断 大動脈肺動脈中隔欠損

◆ 新生児搬送収容数（例）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

2016年の当院への新生児搬送依頼件数（登録数）は52例で、当院で収容できたのが40例、県内施設に収容したのが12例であった。当院から県外への搬送依頼はなかった。新生児搬送の主訴は呼吸障害（17例）が最も多く、ついで心疾患（7例）が多かった。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
新生児搬送収容数	32	52	45	62	65	57	48	45	40

◆ 新生児搬送疾患名（例 重複あり）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

		2013	2014	2015	2016
呼吸器疾患		20	18	18	17
内訳	呼吸障害	19	17	18	17
	新生児無呼吸発作	1	1	-	-
心・循環器疾患		2	3	3	7
内訳	心疾患	-	-	1	6
	心雑音	-	1	1	1
	心奇形	-	1	1	-
	心不全	-	1	-	-
	不整脈	2	-	-	-
消化管疾患		8	9	11	1
内訳	新生児嘔吐症	-	2	3	-
	胆汁性嘔吐	2	2	2	1
	血便	-	-	2	-
	鎖肛	1	-	2	-
	尿道下裂	4	2	1	-
	肛門部奇形	-	1	1	-
	腹部膨満	1	1	-	-
	哺乳不良	-	1	-	-
脳・神経疾患		3	3	2	1
内訳	脊髄髄膜瘤	-	2	-	-
	けいれん発作	2	1	1	1
	帽状腱膜下血腫	1	-	1	-

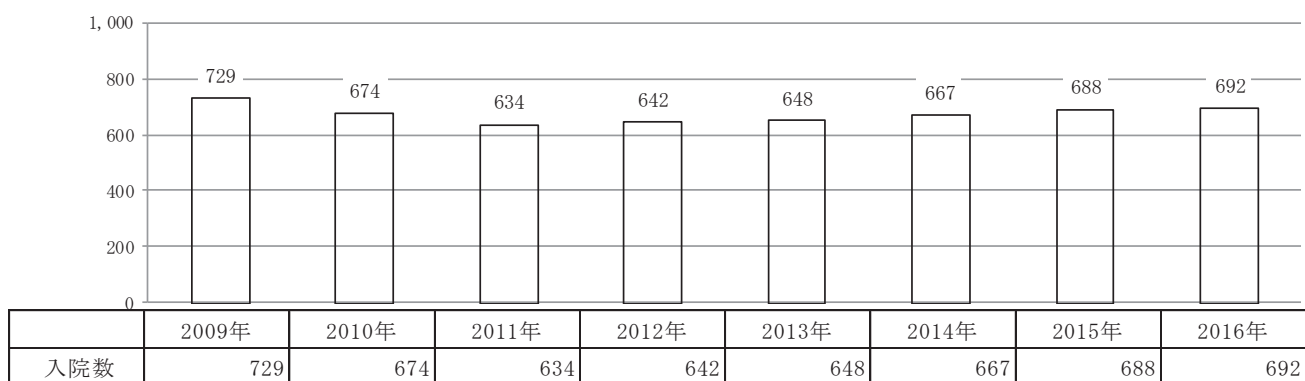
		2013	2014	2015	2016
染色体異常 奇形症候群		5	2	3	4
内訳	ダウン症	-	1	1	2
	奇形（症候群）	2	-	1	2
	口唇口蓋裂	2	-	1	-
	仙骨部皮膚洞	1	-	-	-
	反跳膝	-	1	-	-
感染症		-	-	3	1
感染症		-	-	3	1
その他		18	14	14	6
内訳	低出生体重児	6	1	3	-
	新生児仮死	2	3	4	4
	魚鱗癬	-	-	-	1
	黄疸	3	5	1	1
	甲状腺機能異常	-	1	-	-
	チアノーゼ	2	2	2	-
	インフルエンザ疑い	-	1	-	-
	多血	1	-	-	-
	低血糖	2	-	-	-
	発熱	1	-	-	-
	陰部の嚢胞	1	-	-	-
	下肢浮腫	-	1	-	-
	吐血	-	-	1	-
	性分化異常	-	-	1	-
	臀部腫瘍	-	-	1	-
	臍帯ヘルニア疑い	-	-	1	-

3. 奈良県総合医療センター

(1) 産科部門診療実績

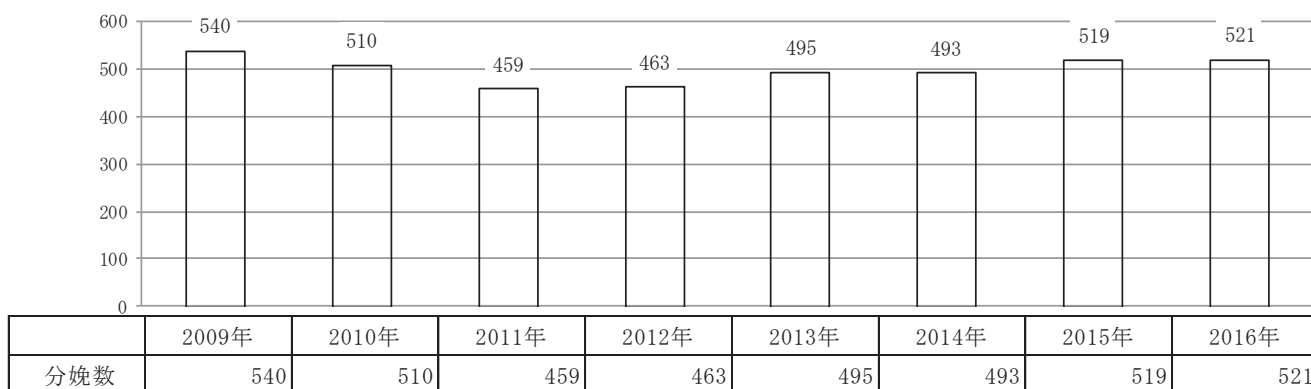
◆ 入院数（例）

入院患者数は搬送や紹介症例の増加から、2011年以降やや増加傾向にある。そのため産科病棟は緊急入院の受け入れおよび重症患者の増加による平均在院日数の延長を考慮し、2015年7月に病床数を26床から30床に増床した。これにより病床利用率はやや低下したものの、患者の受け入れ不可という事態は回避できている。切迫早産などの診断で当センターへ母体搬送された症例は、前医での受け入れが可能となる週数まで入院管理が行えた場合、患者の希望も考慮し、逆紹介により紹介元での分娩も積極的に勧めている。



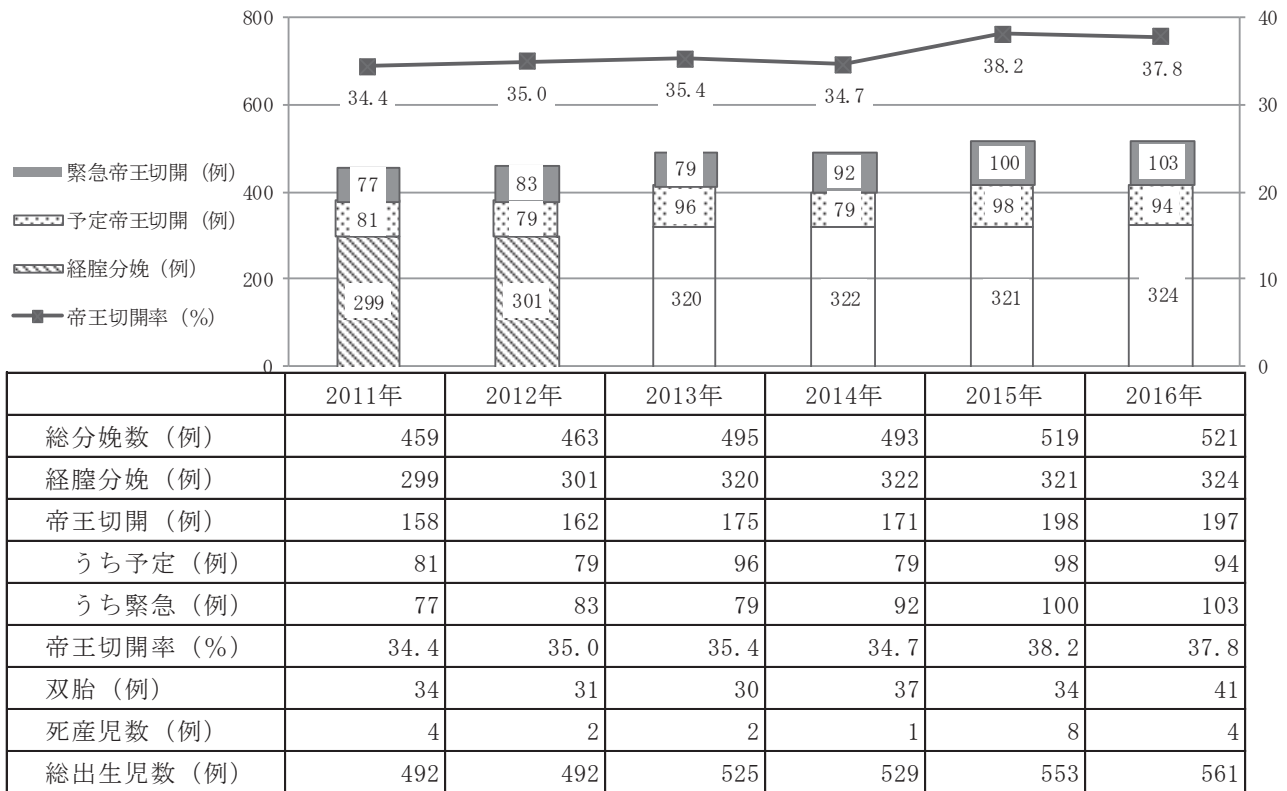
◆ 分娩数（例）

多胎妊娠も1例として表示している。2010年前期のみスタッフ不足を理由に、分娩予約数のローリスクを週8件から4件（ハイリスクは4件のまま）に半減したため、年間分娩数は一時減少した。2010年後期から、分娩予約数は週にローリスクを5件に制限しながら、ハイリスクを5件に増加した。その後はハイリスク妊娠および母体搬送の受け入れの増加に伴い、年間約500件の分娩数を維持している。ハイリスク妊婦の状態改善や妊娠35週以降までの維持管理が達成された場合、紹介元への逆紹介を積極的に行っており、その妊婦数は年間約50例におよぶ。



◆ 分娩様式

2016年の分娩様式は例年と大きな変化はない。当センターでは既往帝王切開例の分娩様式は帝王切開としているが、分娩予約時はローリスク妊娠として扱っている。さらなるハイリスク妊娠の受け入れに重点を置いているため、帝王切開率は約38%と高率である。また、帝王切開症例のうち緊急帝切が50.5%と半数を超えている。双胎分娩は41例であった。双胎のうち21例は予定帝切、18例は緊急帝切で分娩（うち1例は第1子経膈分娩後の緊急帝切）となり、2例が経膈分娩となった。双胎の経膈分娩は適応を満たした症例にインフォームドチョイスとしているが、経膈分娩を選択する症例は減少傾向にある。



◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

2011年から当センターでは妊娠28週以降（児推定体重1000g以上）を、奈良医大ではそれ以前や胎児奇形などを含めた重症症例を中心に受け入れることで、2施設の役割分担を明確化した。その結果28週未満の分娩はほとんどなくなり、NICUの適切な病床運用が可能となった。一方、妊娠42週以降の過期産も数例認められ、大きな問題はなかったものの、過期産を回避する方向で妊娠管理基準を修正し、2015年以降はゼロとなった。また分娩週数の中心は妊娠37～38週であるが、2014年、2016年は37週と39週に2峰化しており、地域周産期母子医療センターとしてハイリスク妊娠が約半数を占める当センターの特徴といえる。しかしながら、妊娠リスクレベルと同時に在胎週数37週の新児の未熟性に関連する各種障害も十分考慮したうえで予定帝切日を設定する必要があり、今後さらなる修正も考えられる。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
25週	-	1	-	-	-	-
26週	1	-	-	2	-	-
27週	-	-	-	-	1	2
28週	-	2	2	2	4	2
29週	2	4	2	2	1	1
30週	3	5	6	4	4	5
31週	8	5	7	4	8	7
32週	8	4	11	10	10	12
33週	10	9	9	11	14	18
34週	13	18	18	22	21	24
35週	16	20	17	28	28	32
36週	27	23	29	23	43	40
37週	63	65	101	111	114	125
38週	96	108	91	73	101	96
39週	95	98	86	116	81	101
40週	85	67	85	86	83	69
41週	28	32	29	27	32	23
42週	1	2	2	6	-	-
不明	3	-	-	1	-	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

2011年から当センターでは妊娠28週以降（児推定体重1000g以上）を、奈良医大ではそれ以前を含めた症例を中心に受け入れることと取り決めた結果から、出生体重1000g未満の分娩は年間2-3例で推移している。分娩時週数の中心が妊娠38週から37週にシフトし、また低出生体重児の割合は33.4%で例年よりも増加した。NICU収容の対象となっている2000g未満の児は、2012年の51例（11.1%）と比較し、2013年は42例（8.0%）に減少したが、2014年は再び11.4%、2015年は13.8%、2016年は12.9%とやや増加傾向である。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
500-999g	1	2	2	3	2	3
1,000-1,499g	13	15	15	14	15	11
1,500-1,999g	32	34	25	43	44	58
2,000-2,499g	87	79	87	91	110	114
2,500g以上	355	331	394	377	374	370
不明	4	-	-	-	-	1

◆ 出産時年齢（例）

2016年分娩妊婦521例のうち35歳以上は218例（41.8%）を占めている。2012年では38.4%であったが、2013年以降は40%を超え、ほぼ横ばいである。

40歳以上の症例は2015年の9.8%に対し、2016年は12.9%と上昇した。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
35歳未満	285	281	273	305	303
35-39歳	144	158	165	163	151
40-44歳	32	55	52	50	63
45歳以上	2	1	3	1	4

◆ 合併症妊娠（例）

合併症で多いのは子宮筋腫、糖尿病、精神科疾患などである。2013年以降のデータは、日本産科婦人科学会の周産期登録データベースから抽出したものであるため、喘息合併の症例については、一部解析できていない。子宮筋腫核出術後については前述のデータベースからは解析できないが2014年以降は当院で独自に集計した。今後この周産期年報における表示項目についても再度検討する必要があるだろう。

合併症についての解析は、2012年以前のデータベースが不完全と推測されるため、年次別変動については評価できない。しかしながら糖尿病や精神科疾患については、増加傾向であると推測されることから、慎重な動向観察が必要である。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
子宮筋腫	-	-	36	33	29	42
子宮筋腫（核出術後）	27	13	-	10	14	16
卵巣嚢腫（腫瘍）	9	2	4	5	9	5
子宮頸癌（含円錐切除後）	7	-	3	8	10	9
子宮奇形	4	4	4	1	6	1
甲状腺機能亢進症	3	2	8	9	6	12
甲状腺機能低下症	3	1	7	10	9	14
糖尿病（含GDM）	23	11	20	27	27	29
喘息	14	3	-	-	11	9
慢性腎炎	5	-	3	2	4	-
本態性高血圧	3	1	1	7	4	5
自己免疫疾患	3	1	8	12	2	5
循環器疾患	4	1	3	2	7	-
精神科疾患（含てんかん）	14	4	14	33	24	20
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	3	-	1	2	7	-
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	7	-	2	4	4	8
その他	11	-	-	-	-	-

◆ 産科合併症（例 重複あり）

産科合併症では、やはり切迫早産や前期破水が多くを占めている。妊娠高血圧症候群、前置胎盤、常位胎盤早期剥離などの重篤な合併症も多々認められた。2013年以降の弛緩出血の症例数が目立って増加しているが、これは産後2時間までの出血量が500g以上という、いわゆる分娩時多量出血の定義をもとに集計した結果である。産褥期の出血によりバイタル異常を呈した例数を意味するものではない。当院では新生児外科疾患に対応困難であり、消化管異常や先天性心奇形等と判断した症例は大学病院等への母体搬送となっているため、当院で分娩まで管理した胎児異常の症例数は少ない。

産婦人科学会の分娩統計をベースとした集計であるため、当院で分娩に至った症例のみに基づくデータであり、入院管理後に地域病院に逆紹介した症例、外来管理後に他院紹介とした症例は除かれていることに留意されたい。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
切迫早産・前期破水	128	111	219	147	168	189
妊娠高血圧症候群	32	35	21	42	58	57
胎内胎児発育制限	21	5	13	14	35	39
多胎妊娠	34	31	30	36	34	41
前置胎盤	12	9	12	11	7	15
子癩	-	5	4	2	1	-
弛緩出血	15	97	282	136	56	62
常位胎盤早期剥離	10	11	4	8	8	7
HELLP症候群	1	3	1	-	1	2
低置胎盤	-	-	5	1	5	4
血液型不適合	-	-	6	4	6	8
羊水過多	-	-	-	1	-	2
羊水過小	-	-	2	3	7	3
胎児異常	-	-	-	-	-	4
その他	199	-	-	-	-	-

◆ 産科手術他（例）

2016年の頸管縫縮術は1例のみであった。また子宮動脈塞栓術の適応例もなかった。胎児手術や羊水除去は当センターでは以前から行っていない。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
子宮頸管縫縮術	4	3	3	5	6	1
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	5	2	12	2	2	2
産道血腫除去術	1	1	-	1	-	3
子宮動脈塞栓術	4	2	2	4	3	-
子宮摘出術	3	-	1	1	-	-
その他	22	-	-	-	-	-

◆ 輸血治療症例（例）

2016年は産科入院症例の22例に輸血を要した。内訳は、当院での分娩後の輸血例が16例（うち3例は自己血輸血）と、産後出血による産褥搬送11例のうちの6例である。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
輸血治療症例数	27	-	14	20	33	25

◆ NICU 収容症例数（例）

近年NICU収容新生児数は増加傾向であったが、2015年以降は150例以下となっている。専門的治療が行われることは好ましい状況であると考え、NICU収容基準の変化、ハイリスク妊娠の増加、分娩週数の低下など、NICU収容新生児数の増加に影響する因子を解析し、NICU病床のより適切な運用を目指す必要がある。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
NICU収容症例数	121	145	208	227	141	147

◆ 多胎妊娠（例）

多胎妊娠は2010年以降35例前後で大きな変動はないが、2016年は41例で例年より多かった。双胎妊娠では32週前後から入院管理となる場合が多く、全病床のうち約4床を常時占有することになり、平均在院日数の増加にも影響している。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
双胎	34	31	30	37	34	41
うちMD	9	11	11	16	10	18
うちDD	25	20	19	21	24	23

◆ 母体搬送収容数（例）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

院外からの母体産褥搬送の収容は、2011年以降著明に増加した。2016年の搬送収容148件のうち、133件が母体搬送で、切迫早産が52例含まれ、そのうち紹介元の再度受け入れが可能となる週数まで妊娠継続が可能であった22例は、紹介元へ逆紹介することができている。産褥搬送は15件と、2014年の23件をピークに減少傾向で、近大奈良病院や天理よろづ相談所病院への収容増加による可能性がある。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
母体搬送収容数	106	100	105	141	147	148

◆ 母体搬送疾患名（例 重複あり）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

母体産褥搬送となった疾患名に大きな変動はなかった。切迫早産や前期破水が大半を占める。胎児奇形の疑いで搬送依頼があった際には、当院NICUでの対応は困難であることから奈良医大・近大奈良あるいは大阪府内の新生児外科で対応可能な病院への搬送を依頼している。妊娠高血圧症候群、産後出血、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、HELLP症候群などの重篤例や産後出血についての搬送数は例年と著変なかった。

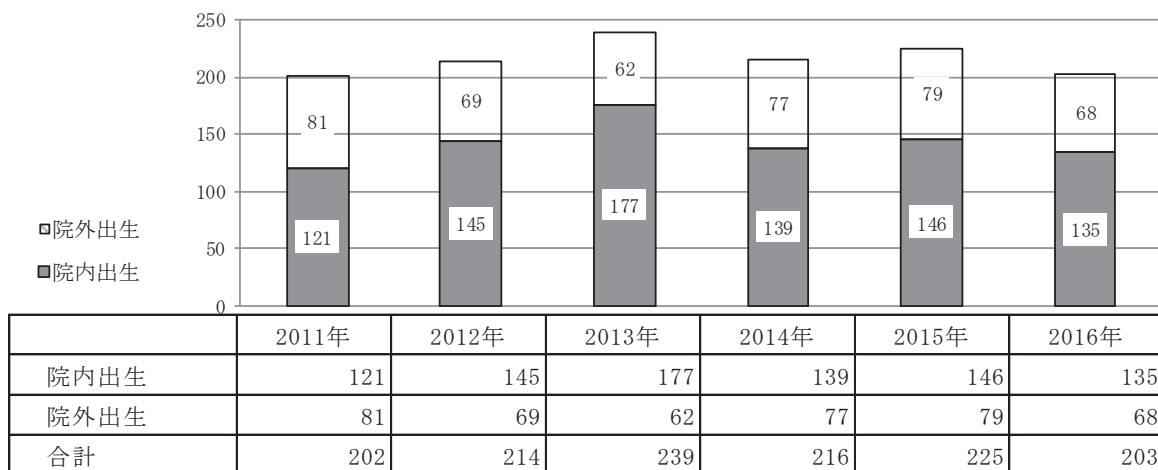
	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
切迫早産・前期破水	56	62	74	84	97	94
妊娠高血圧症候群	8	13	6	10	19	16
胎内胎児発育制限	8	5	2	1	1	4
産後出血	10	8	2	20	8	11
胎児機能不全	5	4	1	2	2	3
常位胎盤早期剥離	2	5	5	5	3	3
前置胎盤	2	5	2	1	2	2
多胎	-	-	1	4	-	-
HELLP症候群	-	3	1	2	-	1
その他	18	12	28	12	15	14

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)

2014年 - 自宅1名と路上1名を院外とカウント

2015年 - 自宅1名を院外とカウント



◆ 入院時疾患名 (例)

	2012	2013	2014	2015	2016
呼吸器疾患	121	93	70	146	101
内訳					
新生児呼吸障害	-	-	4	-	12
新生児一過性多呼吸	47	38	34	82	55
重症新生児無呼吸発作	-	1	-	-	-
新生児無呼吸発作	25	38	17	8	6
新生児呼吸窮迫症候群	22	6	5	46	18
胎便吸引症候群	10	7	5	4	3
喉頭軟化症	-	-	2	-	-
新生児気胸、新生児緊張性気胸	5	2	1	1	1
新生児慢性肺疾患	-	-	1	-	-
新生児肺出血	9	1	1	4	5
肺炎	3	-	-	-	-
誤嚥性肺炎	-	-	-	1	1
心・循環器疾患	4	1	3	4	5
内訳					
新生児遷延性高血圧症	2	-	1	-	1
両大血管右室起始症	-	-	1	-	1
新生児肺動脈閉鎖症	-	-	1	-	-
動脈管開存症	-	1	-	-	1
大動脈弓離断	1	-	-	-	-
動脈管早期閉鎖	-	-	-	1	-
新生児不整脈	-	-	-	1	-
心室中隔欠損症	1	-	-	1	1
Fallot四徴症	-	-	-	1	-
肺高血圧症	-	-	-	-	1
消化管疾患	5	3	6	6	6
内訳					
新生児嘔吐	-	1	3	5	5
初期嘔吐	4	-	-	-	-
哺乳障害	-	1	1	-	1
新生児メレナ	1	1	-	1	-
肥厚性幽門狭窄症	-	-	1	-	-
胎便栓症候群	-	-	1	-	-
脳・神経疾患	4	1	1	1	2
内訳					
帽状腱膜下出血	1	-	-	-	-
新生児頭蓋内出血	1	-	-	-	-
急性硬膜下出血	1	-	-	-	-
低酸素性脳症	-	1	-	-	-
新生児低酸素性虚血性脳症	-	-	-	-	1
新生児の筋緊張症	-	-	1	-	-
新生児痙攣	1	-	-	1	1
染色体異常 奇形症候群	3	5	4	6	3
内訳					
18トリソミー	-	2	2	-	-
21トリソミー	1	-	-	3	1
Prader-Willi症候群	-	1	-	1	-
タナトフォリック骨異形成症	-	-	-	-	-
口唇口蓋裂	-	1	-	2	-
TAM	1	-	-	-	-
両側低形成腎	-	-	1	-	-
両側先天性水腎症	-	1	1	-	-
反張膝	1	-	-	-	-
気管支肺異形成症	-	-	-	-	1
トリーチャ・コリンズ症候群	-	-	-	-	1

		2012	2013	2014	2015	2016																																																																																																																																																																											
感染症		5	9	13	13	5																																																																																																																																																																											
内 訳	重症感染症の疑い	-	-	1	-	-																																																																																																																																																																											
	新生児感染症	3	-	-	7	3																																																																																																																																																																											
	新生児TSS様発疹症	2	1	-	2	-																																																																																																																																																																											
	ウイルス性胃腸炎	-	1	1	-	-																																																																																																																																																																											
	サイトメガロウイルス感染症	-	-	1	-	1																																																																																																																																																																											
	RSウイルス感染症	-	-	1	-	-																																																																																																																																																																											
	MRSA感染症	-	1	1	-	-																																																																																																																																																																											
	GBS感染症	-	-	-	3	1																																																																																																																																																																											
	子宮内感染症	-	-	1	-	-																																																																																																																																																																											
	リステリア症	-	-	1	-	-																																																																																																																																																																											
	先天梅毒疑い	-	-	-	1	-																																																																																																																																																																											
	菌血症	-	1	-	-	-																																																																																																																																																																											
	CBS敗血症	-	1	-	-	-																																																																																																																																																																											
	新生児敗血症	-	3	2	-	-																																																																																																																																																																											
	新生児敗血症のショック	-	-	1	-	-																																																																																																																																																																											
	伝染性膿痂症	-	-	2	-	-																																																																																																																																																																											
	細菌性髄膜炎	-	1	1	-	-																																																																																																																																																																											
その他		100	127	119	43	81																																																																																																																																																																											
内 訳	低出生体重児	27	50	27	10	21																																																																																																																																																																											
	極低出生体重児	16	19	10	1	4																																																																																																																																																																											
	超低出生体重児	3	2	2	-	4																																																																																																																																																																											
	small for date	14	-	-	-	-																																																																																																																																																																											
	sleeping baby	2	-	-	-	-																																																																																																																																																																											
	早産児	10	33	58	2	31																																																																																																																																																																											
	重症新生児仮死	-	2	4	-	3																																																																																																																																																																											
	新生児仮死	11	5	2	13	2																																																																																																																																																																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>2012</th> <th>2013</th> <th>2014</th> <th>2015</th> <th>2016</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="22">内 訳</td> <td>潜在性胎児仮死</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>新生児紫斑</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>新生児重症黄疸</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>新生児黄疸</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>高ビリルビン血症</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>新生児低血糖</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>新生児一過性低血糖症</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>高インスリン性低血糖症</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>新生児低体温症</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>分娩時外傷</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>大腿骨骨幹部骨折</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>新生児鎖骨骨折</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>甲状腺機能低下症</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>寒冷障害</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>多血症</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>Rh溶血性疾患</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>新生児ABO不適合溶血性疾患</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>帝切児症候群</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>新生児血小板減少症</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>新生児脱水症</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>後鼻孔閉鎖症</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>先天性表皮水疱症の疑い</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>新生児臍炎</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>帝切児症候群</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>急性胃腸膜病変</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>甲状腺腫</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>未熟児網膜症</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>									2012	2013	2014	2015	2016	内 訳	潜在性胎児仮死	-	-	-	1	-	新生児紫斑	1	-	-	-	-	新生児重症黄疸	-	-	1	-	-	新生児黄疸	-	2	2	-	3	高ビリルビン血症	4	3	1	4	1	新生児低血糖	7	3	1	4	3	新生児一過性低血糖症	-	-	-	-	2	高インスリン性低血糖症	-	-	1	4	-	新生児低体温症	-	1	1	-	-	分娩時外傷	1	-	-	-	-	大腿骨骨幹部骨折	-	1	-	-	-	新生児鎖骨骨折	-	-	-	-	1	甲状腺機能低下症	1	-	-	-	-	寒冷障害	1	-	-	-	-	多血症	2	1	3	3	1	Rh溶血性疾患	-	1	-	-	-	新生児ABO不適合溶血性疾患	-	2	1	-	-	帝切児症候群	-	1	2	-	-	新生児血小板減少症	-	-	1	-	-	新生児脱水症	-	-	1	-	-	後鼻孔閉鎖症	-	-	1	-	-	先天性表皮水疱症の疑い	-	1	-	-	-	新生児臍炎	-	-	-	1	-	帝切児症候群	-	-	-	-	2	急性胃腸膜病変	-	-	-	-	1	甲状腺腫	-	-	-	-	1	未熟児網膜症	-	-	-	-	1
			2012	2013	2014	2015	2016																																																																																																																																																																										
内 訳	潜在性胎児仮死	-	-	-	1	-																																																																																																																																																																											
	新生児紫斑	1	-	-	-	-																																																																																																																																																																											
	新生児重症黄疸	-	-	1	-	-																																																																																																																																																																											
	新生児黄疸	-	2	2	-	3																																																																																																																																																																											
	高ビリルビン血症	4	3	1	4	1																																																																																																																																																																											
	新生児低血糖	7	3	1	4	3																																																																																																																																																																											
	新生児一過性低血糖症	-	-	-	-	2																																																																																																																																																																											
	高インスリン性低血糖症	-	-	1	4	-																																																																																																																																																																											
	新生児低体温症	-	1	1	-	-																																																																																																																																																																											
	分娩時外傷	1	-	-	-	-																																																																																																																																																																											
	大腿骨骨幹部骨折	-	1	-	-	-																																																																																																																																																																											
	新生児鎖骨骨折	-	-	-	-	1																																																																																																																																																																											
	甲状腺機能低下症	1	-	-	-	-																																																																																																																																																																											
	寒冷障害	1	-	-	-	-																																																																																																																																																																											
	多血症	2	1	3	3	1																																																																																																																																																																											
	Rh溶血性疾患	-	1	-	-	-																																																																																																																																																																											
	新生児ABO不適合溶血性疾患	-	2	1	-	-																																																																																																																																																																											
	帝切児症候群	-	1	2	-	-																																																																																																																																																																											
	新生児血小板減少症	-	-	1	-	-																																																																																																																																																																											
	新生児脱水症	-	-	1	-	-																																																																																																																																																																											
	後鼻孔閉鎖症	-	-	1	-	-																																																																																																																																																																											
	先天性表皮水疱症の疑い	-	1	-	-	-																																																																																																																																																																											
新生児臍炎	-	-	-	1	-																																																																																																																																																																												
帝切児症候群	-	-	-	-	2																																																																																																																																																																												
急性胃腸膜病変	-	-	-	-	1																																																																																																																																																																												
甲状腺腫	-	-	-	-	1																																																																																																																																																																												
未熟児網膜症	-	-	-	-	1																																																																																																																																																																												

◆ 出生週数（例）

2013年 - 週数不明（おそらく満期と思われる）1名あり。

下表（2013年）とこの1名で合計239名となる。

2014年 - 週数不明2名あり。下表（2014年）とこの2名で合計216名となる。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
23週	-	-	-	-	-	1
24週	-	-	-	-	-	-
25週	-	1	1	-	-	-
26週	-	-	-	2	-	3
27週	-	-	-	-	1	2
28週	1	1	4	3	6	2
29週	2	4	4	2	1	1
30週	4	8	5	3	5	3
31週	10	5	7	4	10	9
32週	8	5	12	10	14	13
33週	11	9	22	13	17	12
34週	16	18	17	23	22	22
35週	19	28	27	33	36	32
36週	18	13	13	17	16	14
37週以上	112	122	127	104	97	89

◆ 出生時体重（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
500g未満	-	-	-	-	-	1
500-749g	1	-	-	-	-	-
750-999g	1	3	2	4	2	7
1,000-1,249g	6	6	6	6	10	6
1,250-1,499g	8	11	21	10	10	7
1,500-1,749g	16	10	24	16	23	19
1,750-1,999g	21	27	20	31	35	27
2,000-2,249g	28	26	23	31	25	29
2,250-2,499g	22	26	31	25	27	27
2,500g以上	99	105	112	93	93	80

◆ 人工呼吸器管理症例

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
入院数（例）	202	214	239	216	225	203
人工呼吸器管理症例数（例）	112	80	86	66	84	67
人工管理症例率（％）	55.4	37.4	36.0	30.6	37.3	33.0

◆ 出生週数別の日齢28日以後の生存数（例）

2013年 - 1名は生後3日目で死亡のため合計238名となる。

2014年 - 入院数は216名。しかし週数不明が2名、

1名は生後1日目で死亡のため、下表2014年の合計は213名となる。

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）
26週	-（- / -）	100.0（2 / 2）	-（- / -）	100.0（3 / 3）
27週	-（- / -）	-（- / -）	100.0（1 / 1）	100.0（2 / 2）
28週	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）	100.0（6 / 6）	100.0（2 / 2）
29週	100.0（4 / 4）	100.0（2 / 2）	100.0（1 / 1）	100.0（1 / 1）
30週	100.0（5 / 5）	100.0（3 / 3）	100.0（5 / 5）	100.0（3 / 3）
31週	100.0（7 / 7）	100.0（4 / 4）	100.0（10 / 10）	100.0（9 / 9）
32週	100.0（12 / 12）	100.0（10 / 10）	100.0（14 / 14）	100.0（3 / 3）
33週	100.0（22 / 22）	100.0（13 / 13）	100.0（17 / 17）	100.0（12 / 12）
34週	100.0（17 / 17）	100.0（23 / 23）	100.0（22 / 22）	100.0（22 / 22）
35週	100.0（27 / 27）	97.0（32 / 33）	100.0（36 / 36）	96.9（31 / 32）
36週	100.0（13 / 13）	100.0（17 / 17）	100.0（16 / 16）	100.0（14 / 14）
37週以上	99.2（126 / 127）	100.0（104 / 104）	97.9（95 / 97）	100.0（89 / 89）

内訳：各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

◆ 出生体重別の日齢28日以後の生存数（例）

2013年 - 1名は生後3日目で死亡のため合計238名となる。

2014年 - 入院数は216名。1名は生後1日目で死亡のため合計215名となる。

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）
750-999g	100.0（2 / 2）	100.0（4 / 4）	100.0（2 / 2）	100.0（7 / 7）
1,000-1,249g	100.0（6 / 6）	83.3（5 / 6）	100.0（10 / 10）	100.0（6 / 6）
1,250-1,499g	100.0（21 / 21）	100.0（10 / 10）	100.0（10 / 10）	100.0（7 / 7）
1,500-1,749g	100.0（24 / 24）	100.0（16 / 16）	100.0（23 / 23）	100.0（19 / 19）
1,750-1,999g	100.0（20 / 20）	100.0（31 / 31）	100.0（35 / 35）	100.0（27 / 27）
2,000-2,249g	100.0（23 / 23）	100.0（31 / 31）	100.0（25 / 25）	96.6（28 / 29）
2,250-2,499g	100.0（31 / 31）	100.0（25 / 25）	100.0（27 / 27）	100.0（27 / 27）
2,500g以上	99.1（111 / 112）	100.0（93 / 93）	97.8（91 / 93）	100.0（80 / 80）

内訳：各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

◆ 新生児死亡数（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	1	1	2	-
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	-	-	-	-

◆ 死亡例一覧

性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
女	35週6日	2078g	2ヶ月22日	肺高血圧症

◆ 新生児搬送収容数（例）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

2014年 - 79名のうち、2名は路上、自宅を含むため、病院からは実質77名

2015年 - 自宅1名含むため病院からは実質78名

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
新生児搬送収容数	21	12	47	81	65	62	79	78	68

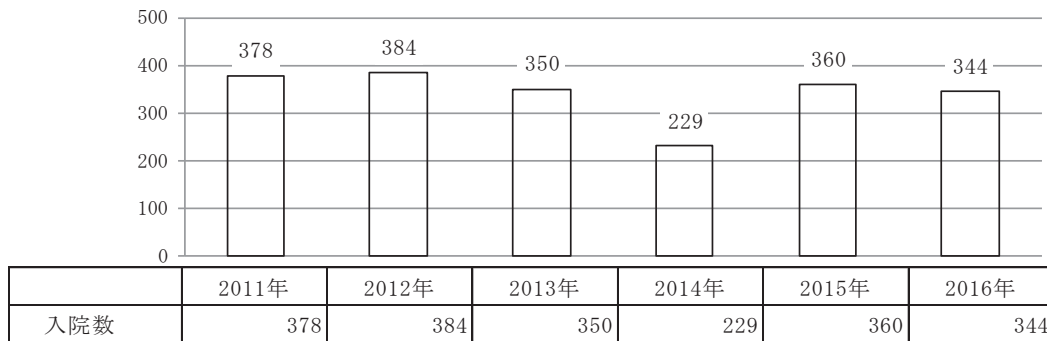
◆ 新生児搬送疾患名（例 重複あり）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

		2013	2014	2015	2016			2013	2014	2015	2016
呼吸器疾患		37	51	37	36	染色体異常 奇形症候群		2	-	2	1
内 訳	呼吸障害	-	48	3	9	内 訳	染色体異常	1	-	-	-
	新生児一過性多呼吸	15		31	17		口唇口蓋裂	1	-	1	-
	新生児無呼吸発作	13		1	2		片側性唇顎口蓋裂	-	-	1	-
	新生児呼吸窮迫症候群	-	-	-	2		ダウン症	-	-	-	1
	新生児気胸、新生児緊張性気胸	1		1	1	感染症		4	4	6	3
	喉頭蓋嚢胞	-	-	1	-	内 訳	感染症	4	3	5	2
	新生児肺出血	3	2	-	1		新生児細菌性髄膜炎	-	-	1	-
	気管支肺異形成症	-	-	-	1		新生児敗血症	-	1	-	-
	胎便吸引症候群	4	1	-	2		先天性サイトメガロウイルス感染症	-	-	-	1
	誤嚥性肺炎	-	-	-	1	その他		16	12	21	21
	咽頭軟化症	1	-	-	-	低出生体重児	4	2	5	1	
心・循環器疾患		1	2	3	3	極低出生体重児	-	-	2	1	
内 訳	完全大血管転位症	-	-	1	-	超低出生体重児	-	-	-	3	
	肺高血圧症	-	-	-	1	早産児	3	2	5	5	
	新生児遷延性肺高血圧症	-	-	2	1	新生児仮死	4	1	2	-	
	両大血管右室起始症	-	1	-	-	重症新生児仮死	-	-	4	3	
	新生児血小板減少症	-	1	-	-	黄疸	-	2	-	3	
	動脈管開存症	1	-	-	1	新生児高ビリルビン血症	1	-	-	1	
消化管疾患		2	7	6	3	低血糖	-	1	2	-	
内 訳	新生児嘔吐症	1	3	1	3	発熱	-	2	-	-	
	新生児メレナ	1	-	1	-	新生児ABO不適合溶血性疾患	2	-	-	-	
	哺乳不良	-	2	3	-	新生児脱水症	-	1	-	-	
	新生児腸回転異常の疑い	-	-	1	-	新生児低体温症	1	-	-	-	
	水様便	-	1	-	-	胎便栓症候群	1	-	-	-	
	腹部膨満	-	1	-	-	C B W	-	1	-	-	
脳・神経疾患		-	1	3	1	新生児低酸素性虚血性脳症	-	-	-	1	
内 訳	新生児痙攣	-	-	1	1	G B S敗血症	-	-	-	1	
	筋緊張	-	1	1	-	心室中隔欠損症	-	-	-	1	
	睡眠時ミオクローヌス	-	-	1	-	新生児鎖骨骨折	-	-	-	1	
					高度インスリン低血糖症	-	-	1	-		

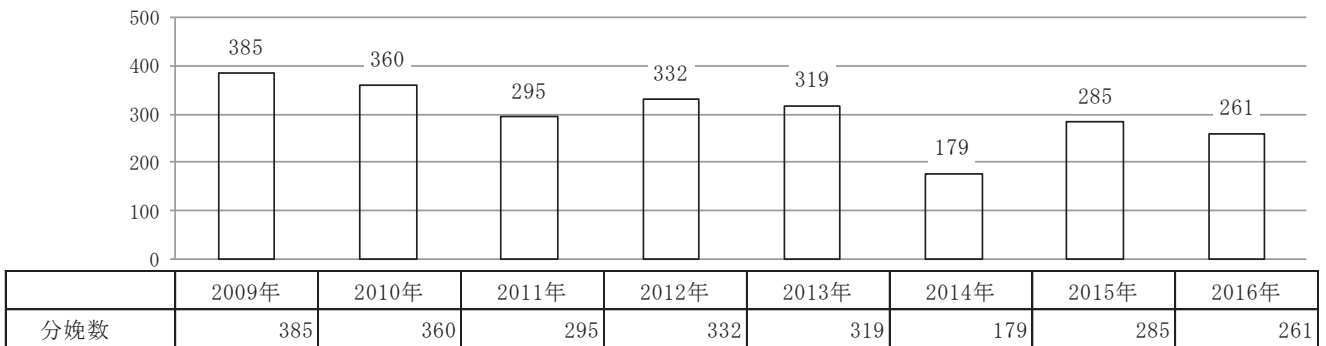
4. 近畿大学医学部奈良病院

(1) 産科部門診療実績

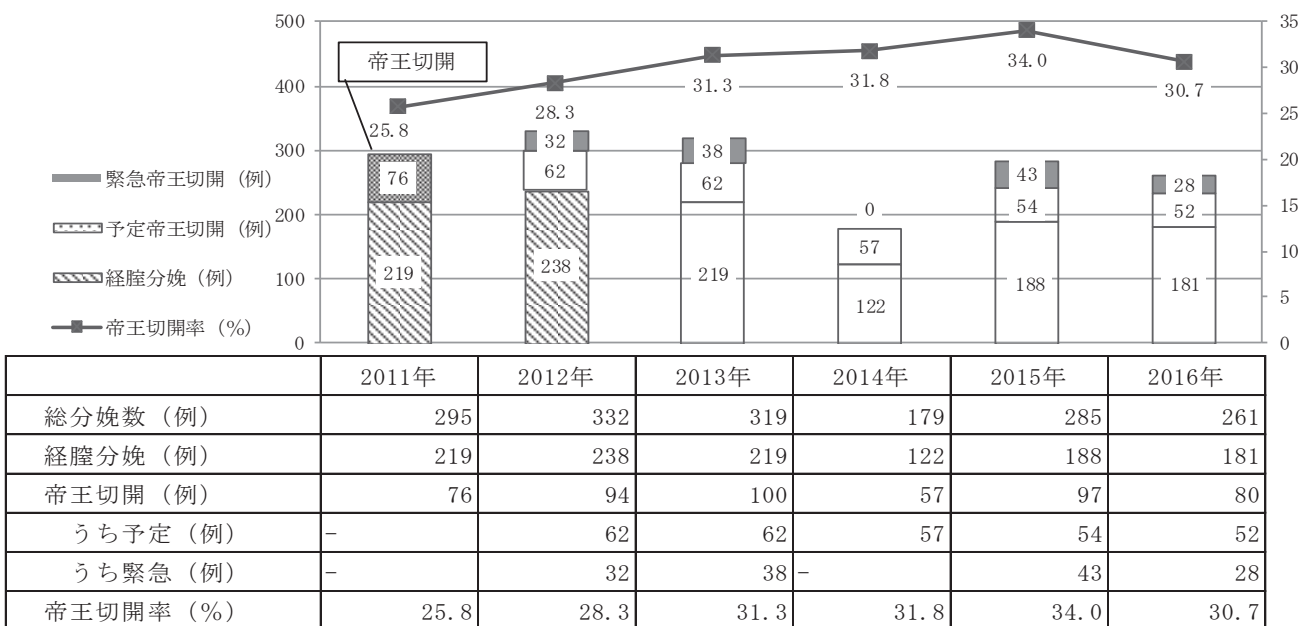
◆ 入院数 (例)



◆ 分娩数 (例)



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
23週	-	-	1	-	-	-
24週	-	-	-	-	-	-
25週	-	1	-	-	-	-
26週	-	-	-	-	-	-
27週	-	-	-	-	-	-
28週	-	-	-	-	-	-
29週	-	-	-	-	-	-
30週	-	-	-	1	-	-
31週	-	-	-	-	-	-
32週	1	-	-	1	3	-
33週	-	1	1	2	1	3
34週	-	1	2	1	4	8
35週	1	2	2	-	10	4
36週	4	8	8	1	15	11
37週	39	54	44	28	34	31
38週	46	75	77	48	78	70
39週	70	70	77	32	65	56
40週	91	80	67	45	58	54
41週	37	32	39	19	17	21
42週	-	2	1	1	-	1

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
500g未満	-	-	1	-	-	-
500-999g	-	1	-	-	-	-
1,000-1,499g	1	-	-	1	2	-
1,500-1,999g	1	2	3	3	6	6
2,000-2,499g	24	22	34	7	31	38
2,500g以上	264	307	281	168	246	220

◆ 出産時年齢（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
35歳未満	196	232	196	88	154	152
35-39歳	85	71	102	67	98	78
40-44歳	14	29	21	24	30	29
45歳以上	-	-	-	-	-	2

◆ 合併症妊娠（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
子宮筋腫	-	-	-	-	14	16
子宮筋腫（核出術後）	2	1	-	6	-	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	-	1	-	13	17
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	-	-	4	-	-
甲状腺機能亢進症	-	-	-	1	1	1
甲状腺機能低下症	-	-	-	1	6	8
糖尿病（含GDM）	1	-	-	5	12	37
喘息	-	-	-	1	11	12
ITP	-	-	-	-	2	3
自己免疫疾患	-	-	-	1	2	-
循環器疾患	-	-	-	-	4	5
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	-	-	-	1	3	3
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	-	-	-	1	11	11

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
切迫早産・前期破水	3	4	24	16	18	35
妊娠高血圧症候群	6	3	10	6	15	11
胎内胎児発育制限	1	-	-	9	9	15
多胎妊娠	-	-	3	1	6	5
前置胎盤	1	4	1	1	4	-
産後出血	4	1	-	-	3	19
弛緩出血	-	-	-	-	-	2
常位胎盤早期剥離	-	5	1	-	2	2
HELLP症候群	-	-	-	-	1	1
低置胎盤	-	-	-	-	1	3
血液型不適合	-	-	-	-	1	11
羊水過多	-	-	-	1	-	5
羊水過小	-	-	-	-	-	11
胎児異常	-	-	-	11	2	8

◆ 産科手術他（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
子宮頸管縫縮術	-	1	1	1	1	1
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	-	-	1	-	-	1
産道血腫除去術	-	-	-	-	-	3

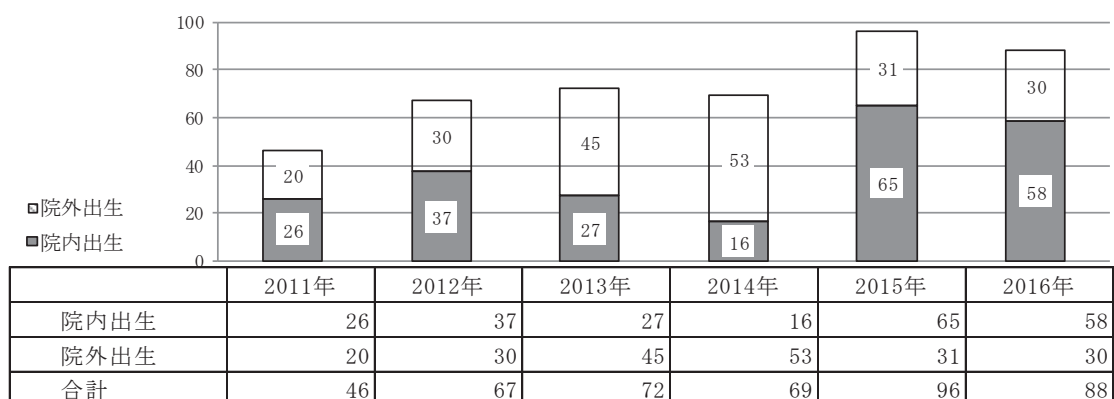
◆ 輸血治療症例（例）

全て自己血貯血症例

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
輸血治療症例数	-	1	-	-	-	9

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)



◆ 入院時疾患名 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年
呼吸器疾患	17	19	21	20
心・循環器疾患	18	12	6	3
消化管疾患	12	16	10	12
脳・神経疾患	-	2	2	3
外科疾患	6	4	10	6
染色体異常 奇形症候群	-	1	3	6
感染症	9	3	6	3
その他	10	12	38	35

◆ 出生週数 (例)

26週の子は単径ヘルニア転院。

	2013年	2014年	2015年	2016年
22週未満	-	2	-	-
22週	-	-	-	-
23週	-	-	-	-
24週	-	-	-	-
25週	1	-	1	-
26週	-	-	-	1
27週	-	-	-	-
28週	1	-	-	-
29週	1	-	-	-
30週	-	1	-	-
31週	-	-	-	-
32週	2	1	2	-
33週	1	1	4	3
34週	1	1	5	11
35週	2	-	13	5
36週	6	1	15	7
37週以上	57	174	56	62

◆ 出生時体重（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年
500g未満	-	2	-	-
500-749g	-	-	-	-
750-999g	1	-	1	1
1,000-1,249g	1	1	-	-
1,250-1,499g	3	-	3	-
1,500-1,749g	3	2	1	4
1,750-1,999g	-	1	7	4
2,000-2,249g	2	4	11	15
2,250-2,499g	17	4	21	18
2,500g以上	45	167	52	46

◆ 人工呼吸器管理症例

	2013年	2014年	2015年	2016年
入院数（例）	72	69	96	88
人工呼吸器管理症例数（例）	17	20	10	16
人工管理症例率（%）	23.6	29.0	10.4	18.2

◆ 外科疾患（心臓、眼科、脳外科など含む）

性別	出生週数	出生体重	疾患名	術式
女	39週	3,304g	VSD	VSD閉鎖術
男	38週	2,770g	ヒルシュスプルング病	腹腔鏡下ヒルシュスプルング病根治術
男	38週	3,528g	腸回転異常症	1/18腸回転異常症手術 1/20サイロ形成術
男	37週	2,888g	腸回転異常症	腸回転異常症手術
女	38週	1,690g	臍帯ヘルニア	臍帯ヘルニア根治術
女	39週	3,242g	先天性十二指腸狭窄	内視鏡バルーン拡張術
男	39週	2,466g	喉頭蓋のう胞	喉頭蓋のう胞摘出術
女	記載なし	2,740g	頸部リンパ管腫	硬化療法
男	39週	3,150g	ヒルシュスプルング病	ヒルシュスプルング病根治術
男	37週	4,042g	胃食道逆流	気管切開術
男	26週	872g	両巣径ヘルニア	両巣径ヘルニア術
男	34週	2,254g	十二指腸閉鎖	十二指腸吻合術
男	36週	2,475g	ヒルシュスプルング病	人工肛門造設術
男	36週	3,208g	水腎症	尿道皮膚瘻造設術
男	37週	3,146g	十二指腸閉鎖	十二指腸十二指腸吻合術

◆ 出生週数別の日齢28日以後の生存率 (%)

	2013年 (内訳)	2014年 (内訳)	2015年 (内訳)	2016年 (内訳)
22週未満	- (- / -)	0 (0 / 2)	- (- / -)	- (- / -)
22週	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
23週	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
24週	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
25週	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)
26週	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	100.0 (1 / 1)
27週	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
28週	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
29週	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
30週	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	- (- / -)
31週	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
32週	100.0 (2 / 2)	100.0 (1 / 1)	100.0 (2 / 2)	- (- / -)
33週	100.0 (1 / 1)	100.0 (1 / 1)	100.0 (4 / 4)	100.0 (3 / 3)
34週	100.0 (1 / 1)	100.0 (1 / 1)	80.0 (4 / 5)	100.0 (11 / 11)
35週	100.0 (2 / 2)	- (- / -)	100.0 (13 / 13)	80.0 (4 / 5)
36週	100.0 (6 / 6)	100.0 (1 / 1)	93.3 (14 / 15)	100.0 (7 / 7)
37週以上	98.2 (56 / 57)	100.0 (174 / 174)	98.2 (55 / 56)	100.0 (62 / 62)

内訳：各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

◆ 出生体重別の日齢28日以後の生存率 (%)

	2013年 (内訳)	2014年 (内訳)	2015年 (内訳)	2016年 (内訳)
500g未満	- (- / -)	0.0 (0 / 2)	- (- / -)	- (- / -)
500-749g	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
750-999g	100.0 (1 / 1)	0.0 (0 / 1)	100.0 (1 / 1)	100.0 (1 / 1)
1,000-1,249g	100.0 (1 / 1)	- (- / -)	- (- / -)	- (- / -)
1,250-1,499g	100.0 (3 / 3)	- (- / -)	33.3 (1 / 3)	- (- / -)
1,500-1,749g	100.0 (3 / 3)	100.0 (2 / 2)	100.0 (1 / 1)	100.0 (4 / 4)
1,750-1,999g	- (- / -)	100.0 (1 / 1)	100.0 (7 / 7)	100.0 (4 / 4)
2,000-2,249g	100.0 (2 / 2)	100.0 (4 / 4)	100.0 (11 / 11)	93.3 (14 / 15)
2,250-2,499g	100.0 (17 / 17)	100.0 (4 / 4)	100.0 (21 / 21)	100.0 (18 / 18)
2,500g以上	97.8 (44 / 45)	100.0 (167 / 167)	98.1 (51 / 52)	100.0 (46 / 46)

内訳：各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

◆ 新生児死亡数 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	-	1	1	1
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	1	-	2	-

◆ 死亡例一覧

性別	出生週数	出生体重	死亡日齢	病名
男	35週	2,212g	5日	13トリソミー

◆ 新生児搬送収容数（例）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
新生児搬送収容数	16	18	5	6	7	20	15	20	24

◆ 新生児搬送疾患名（例 重複あり）＜奈良県周産期医療情報システムより集計＞

	2013	2014	2015	2016	
呼吸器疾患	7	8	9	12	
内訳	呼吸障害	6	8	8	6
	新生児一過性多呼吸	1		1	2
	多呼吸	-	-	-	2
	胎便吸引症候群	-	-	-	1
	喉頭蓋嚢胞	-	-	-	1
染色体異常 奇形症候群	4	1	3	1	
内訳	染色体異常	1	-	-	
	ダウン症の疑い	3	1	2	1
	口唇口蓋裂	-	-	1	
その他	6	3	2	9	
内訳	黄疸	2	-	-	1
	新生児仮死	2	-	1	-
	重傷新生児仮死	-	-	-	1
	超低出生体重児	-	-	-	1
	活気不良	1	-	-	-
	チアノーゼ	1	1	-	-
	日令2からのタール便持続	-	1	-	-
	発熱	-	1	1	1
	21トリソミー疑い	-	-	-	1
	VSD検査	-	-	-	1
	先天性表皮水疱症うたがい	-	-	-	1
	新生児転院のため搬送	-	-	-	1
	詳細不明	-	-	-	1

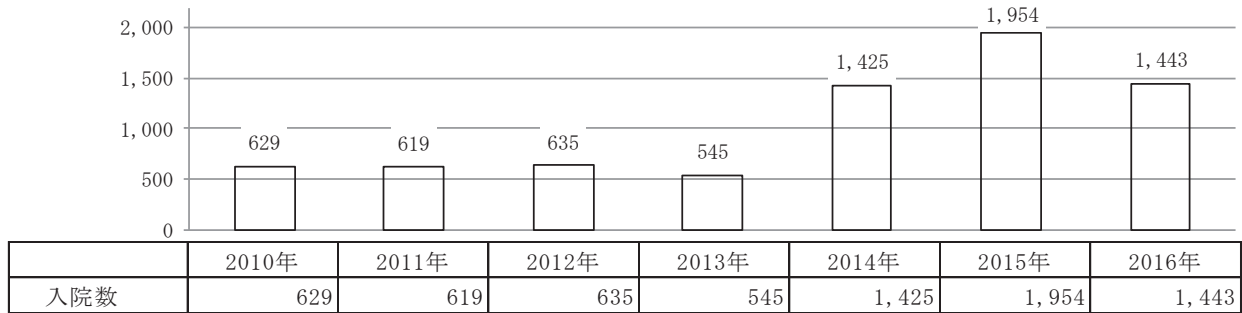
	2013	2014	2015	2016	
心・循環器疾患	6	3	1	2	
内訳	心疾患	1	-	-	-
	心雑音	3	1	-	1
	肺高血圧症	-	-	-	1
	ファロー四徴症	-	-	1	-
	心室中隔欠損（VSD）	1	-	-	-
	不整脈	-	1	-	-
	心内膜症欠損	1	-	-	-
単心室	-	1	-	-	
消化管疾患	5	4	7	6	
内訳	胆汁性嘔吐	2	-	2	-
	血性嘔吐	-	-	1	-
	嘔吐	-	1	1	-
	哺乳緩慢	-	-	-	1
	哺乳不良	2	-	-	1
	新生児メレナ	-	-	1	-
	血便	-	1	-	-
	鎖腸	-	-	1	-
	鎖肛	-	-	-	1
	腹壁破裂	1	-	-	-
腹部膨満	-	2	1	2	
消化管狭窄疑い	-	-	-	1	
感染症	1	-	1	1	
感染症	1	-	1	1	

5. 天理よろづ相談所病院

(1) 産科部門診療実績

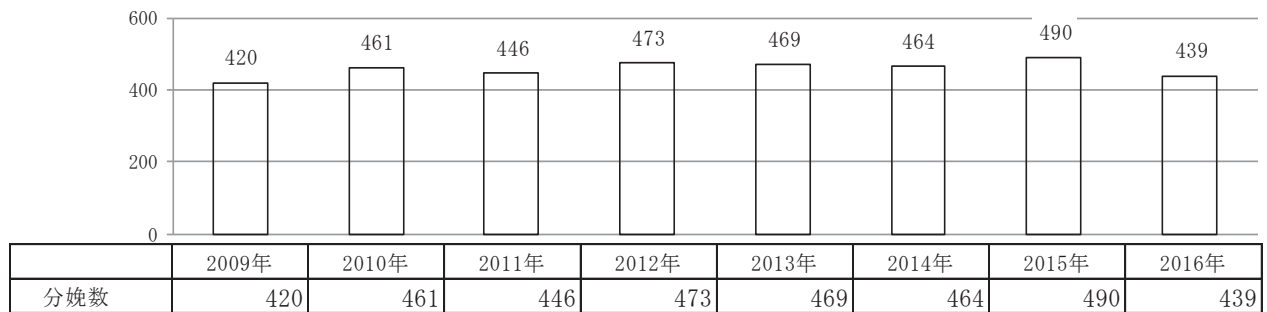
◆ 入院数 (例)

2014年度より産科・婦人科合同で1病棟となったため、産科のみの年間入院数は算出不可能。そのため2014年からは産科・婦人科を合わせた件数を掲載している。

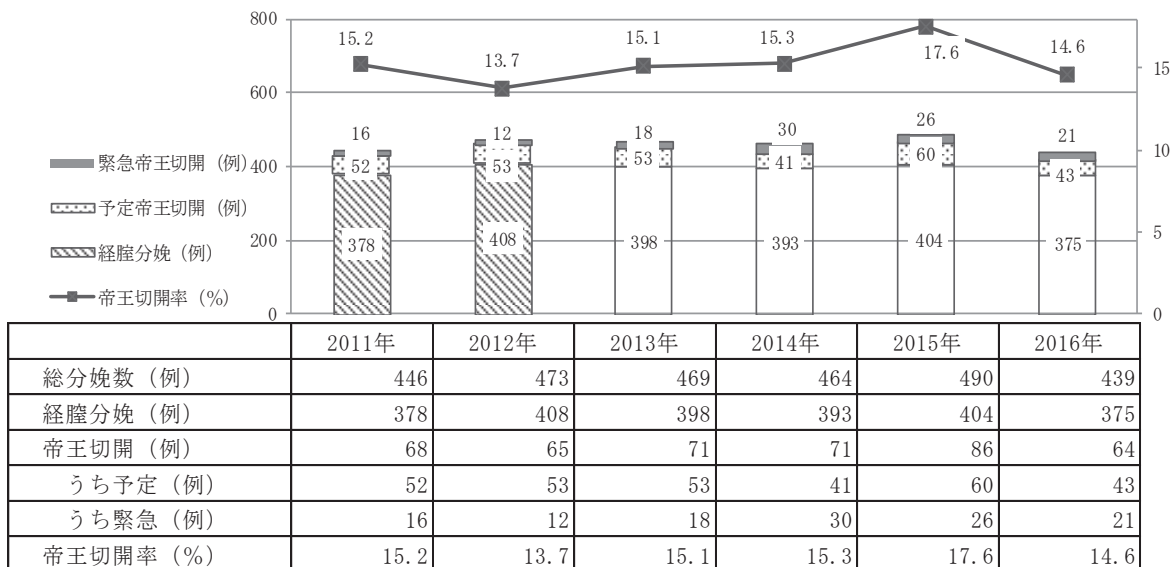


◆ 分娩数 (例)

死産例含む。双胎は2例としてカウント。



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
34週	2	-	1	-	1	3
35週	5	6	8	10	7	4
36週	19	8	9	15	15	15
37週	76	83	38	56	39	29
38週	128	118	151	121	138	107
39週	123	163	146	137	151	98
40週	83	77	92	99	101	135
41週	11	18	21	21	28	30
42週	-	-	-	-	1	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
1,500-1,999g	2	4	7	4	2	6
2,000-2,499g	41	46	46	41	46	27
2,500g以上	403	423	413	414	433	403

◆ 出産時年齢（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
35歳未満	329	355	337	343	345	306
35-39歳	96	88	120	96	118	109
40-44歳	19	30	11	25	27	17
45歳以上	2	-	1	-	-	1

◆ 合併症妊娠（例）

該当項目の統計を当院にて取っていない場合は（-）としています。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
子宮筋腫	25	19	20	18	14	15
子宮筋腫（核出術後）	-	-	4	3	6	2
卵巣嚢腫（腫瘍）	-	2	1	-	-	10
子宮頸癌（含円錐切除後）	-	3	1	-	-	3
子宮奇形	-	1	3	1	-	-
甲状腺機能亢進症	11	17	15	13	16	11
甲状腺機能低下症	4	-	-	6	-	4
糖尿病（含GDM）	16	15	28	27	6	33
喘息	11	16	14	13	15	8
慢性腎炎	-	-	-	-	-	-
本態性高血圧	-	-	1	1	-	-
ITP	2	1	-	1	-	-
自己免疫疾患	4	5	4	6	6	6
循環器疾患	3	12	3	6	2	3
精神科疾患（含てんかん）	4	6	10	10	3	7
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	-	2	1	-	-	2
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	-	-	-	1	-	-
その他	-	-	-	-	-	7

◆ 産科合併症（例 重複あり）

該当項目の統計を当院にて取っていない場合は（-）としています。

- ・「常位胎盤早期剥離」の項目は部分胎盤早期剥離を含む。
- ・「産後出血」は定義不明なため(-)としています。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
切迫早産・前期破水	139	128	132	142	152	113
妊娠高血圧症候群	12	18	18	18	16	14
胎内胎児発育制限	11	34	11	7	10	3
多胎妊娠	2	6	6	3例（6人）	5	3
前置胎盤	2	1	1	-	2	1
産後出血	111	101	115	96	-	-
常位胎盤早期剥離	11	1	1	4	4	1
HELLP症候群	-	1	-	-	-	-
低置胎盤	-	-	3	2	1	2
羊水過多	-	-	2	-	-	-
羊水過小	-	-	-	4	4	-
その他	5	-	-	-	-	5

◆ 産科手術他（例）

産道血腫除去術については当院で統計をとっていません。

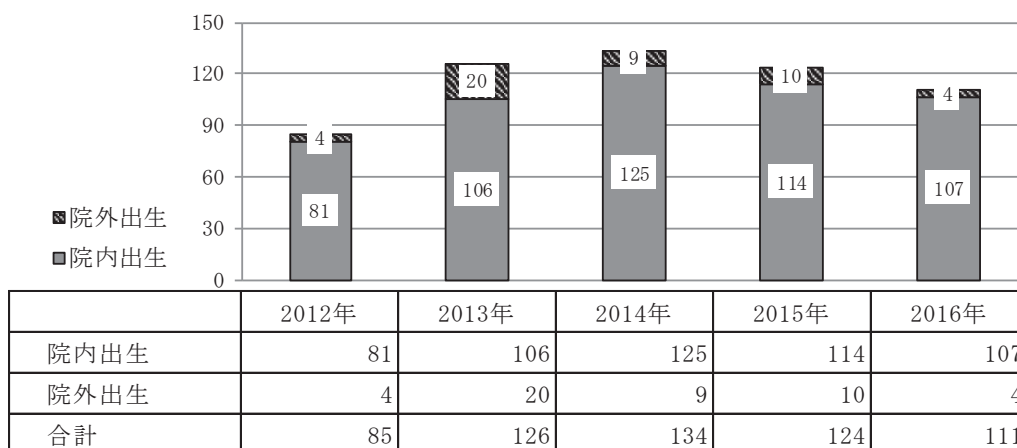
	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
子宮頸管縫縮術	9	4	7	6	12	10
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	3	2	1	-	-	1
産道血腫除去術	-	1	-	-	-	-
子宮動脈塞栓術	-	-	-	1	1	-
子宮摘出術	-	-	-	2	-	1

◆ 輸血治療症例（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
輸血治療症例数	1	-	3	3	1	2

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)



◆ 入院時疾患名 (例)

	2013	2014	2015	2016
呼吸器疾患	34	47	82	72
内訳	一過性多呼吸			37
	呼吸障害			27
	気胸 (軽症)			8
心・循環器疾患	7	5	4	3
先天性心疾患				3
消化管疾患	10	3	5	1
ミルクアレルギー				1
神経疾患	8	13	5	1

	2013	2014	2015	2016
染色体異常 奇形症候群	2	1	2	1
ダウン症候群				1
感染症	12	32	2	35
内訳	MAS (軽症)			2
	不明感染症			33
その他	53	33	24	29
内訳	特発性黄疸			23
	仮死			6

(※2013～2015年は疾患内訳未集計)

◆ 出生週数 (例)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
26週	-	1	-	-	-
27週	-	-	-	-	-
28週	-	-	-	-	-
29週	-	-	-	-	-
30週	-	1	-	-	-
31週	-	-	-	-	-
32週	-	-	-	-	-
33週	-	-	-	-	2
34週	-	1	-	1	4
35週		4	9	6	3
36週		4	5	7	11
37週以上		77	109	110	91

◆ 出生時体重（例）

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
500g未満	-	1	-	-	-
500-749g	-	-	-	-	-
750-999g	-	-	-	-	-
1,000-1,249g	-	-	-	-	-
1,250-1,499g	-	1	-	-	-
1,500-1,749g	1	1	-	-	2
1,750-1,999g	3	5	4	3	4
2,000-2,249g	10	8	5	10	7
2,250-2,499g	10	15	18	16	11
2,500g以上	61	95	107	95	85

◆ 人工呼吸器管理症例

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
入院数（例）	85	126	134	124	111
人工呼吸器管理症例数（例）	2	0	0	0	4
人工管理症例率（％）	2.4	0.0	0.0	0.0	3.6

◆ 外科疾患（心臓、眼科、脳外科など含む）

性別	出生週数	出生体重	疾患名	術式
男	38週	3,112g	完全大血管転位症	Jatene手術

◆ 出生週数別の日齢28日以後の生存数（例）

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）
26週	0.0（0 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
27週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
28週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
29週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
30週	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
31週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
32週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
33週	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（2 / 2）
34週	100.0（1 / 1）	-（- / -）	100.0（1 / 1）	100.0（4 / 4）
35週	100.0（9 / 9）	100.0（11 / 11）	100.0（6 / 6）	100.0（3 / 3）
36週	100.0（5 / 5）	100.0（9 / 9）	100.0（7 / 7）	100.0（11 / 11）
37週以上	100.0（109 / 109）	100.0（114 / 114）	100.0（110 / 110）	100.0（91 / 91）

内訳：各週数毎の生存数(例)/各週数毎の出生数(例)

◆ 出生体重別の日齢28日以後の生存数（例）

・出生体重不明が1名あり。

	2013年（内訳）	2014年（内訳）	2015年（内訳）	2016年（内訳）
500g未満	0.0（0 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
500-749g	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
750-999g	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
1,000-1,249g	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
1,250-1,499g	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	-（- / -）
1,500-1,749g	100.0（1 / 1）	-（- / -）	-（- / -）	100.0（2 / 2）
1,750-1,999g	100.0（5 / 5）	100.0（4 / 4）	100.0（3 / 3）	100.0（4 / 4）
2,000-2,249g	100.0（8 / 8）	100.0（5 / 5）	100.0（10 / 10）	100.0（7 / 7）
2,250-2,499g	100.0（15 / 15）	100.0（18 / 18）	100.0（16 / 16）	100.0（11 / 11）
2,500g以上	100.0（95 / 95）	100.0（107 / 107）	100.0（95 / 95）	100.0（85 / 85）

内訳：各体重毎の生存数(例)/各体重毎の出生数(例)

◆ 新生児死亡数（例）

	2013年	2014年	2015年	2016年
早期新生児死亡数(日齢7日未満の死亡)	1	-	-	-
後期新生児死亡数(日齢7日以上、日齢28日未満の死亡)	-	-	-	-

◆ 新生児搬送収容数（例）

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
新生児搬送収容数	1	-	-	-	-	22	9	10	4

◆ 新生児搬送疾患名（例 重複あり）

院外出生の内訳は、当院の診断は、

先天性心疾患（完全大血管転移）1名

先天性心疾患（房室中隔欠損、両大血管右室起始、肺動脈狭窄）1名

ダウン症+先天性心疾患（房室中隔欠損）+ヒルシュスプルング病1名

肺炎1名の、計4名でした。

	2013	2014	2015	2016
呼吸器疾患	6	4	4	1
呼吸障害	6	4	4	-
肺炎	-	-	-	1
脳・神経疾患	2	-	-	-
痙攣うたがい	2	-	-	-
消化管疾患	2	3	2	-
内訳				
哺乳不良	1	3	1	-
メレナ疑い	1	-	-	-
血性嘔吐	-	-	1	-
その他	4	-	1	-
内訳				
チアノーゼ	-	-	1	-
低体重、双子	3	-	-	-
湿疹(水疱)	1	-	-	-

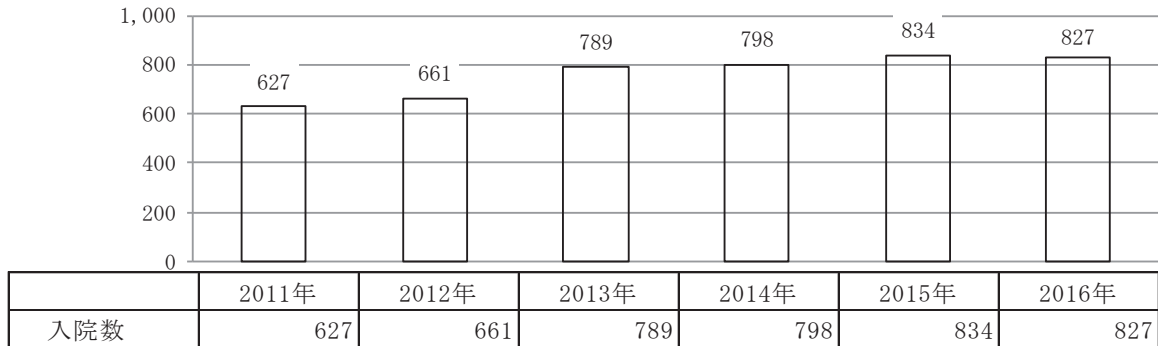
	2013	2014	2015	2016
心・循環器疾患	3	2	3	5
内訳				
心雑音	1	-	-	-
心疾患疑い	2	-	-	-
ファロー	-	-	2	-
VSD	-	-	1	-
徐脈発作	-	1	-	-
不整脈	-	1	-	-
完全大血管転移	-	-	-	1
両大血管右室起始	-	-	-	1
房室中隔欠損	-	-	-	2
肺動脈狭窄	-	-	-	1
感染症	3	-	-	-
感染	3	-	-	-

6. 市立奈良病院

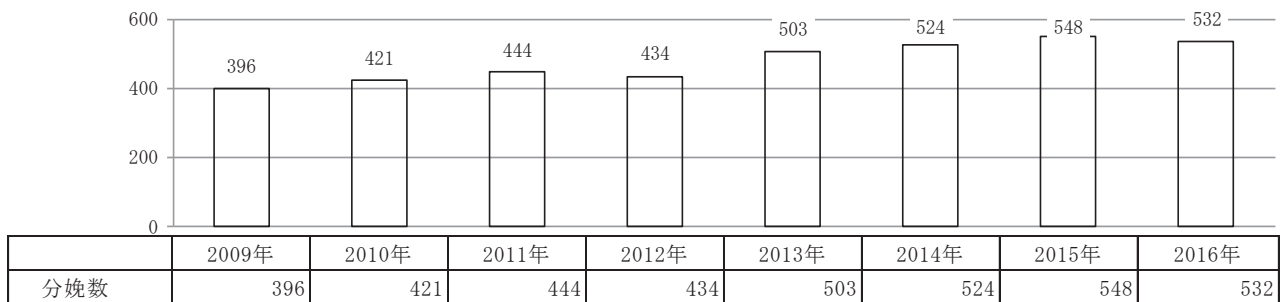
(1) 産科部門診療実績

◆ 入院数 (例)

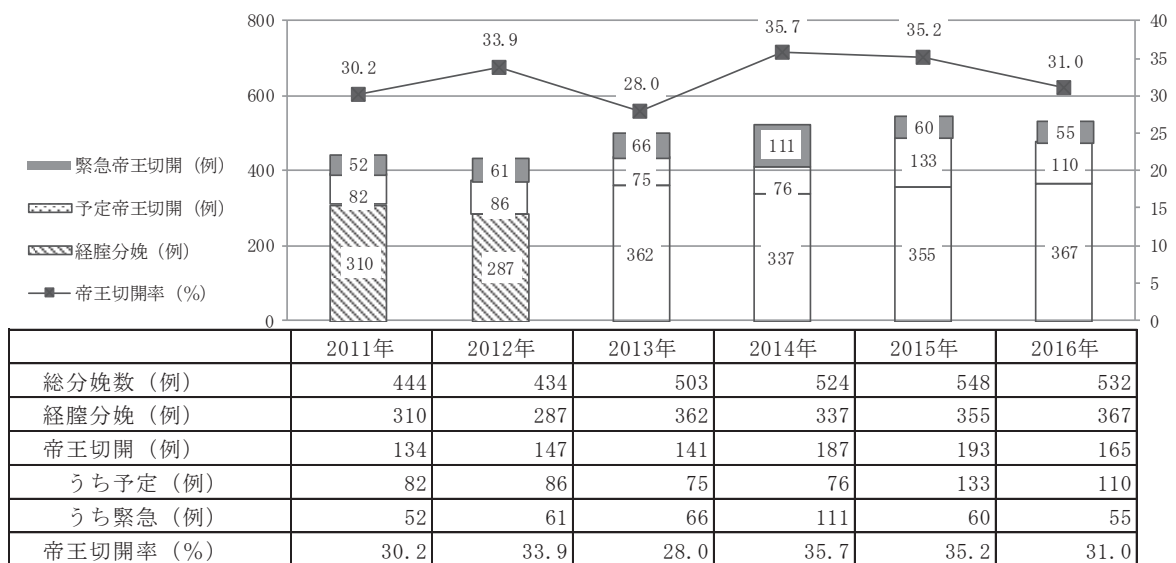
入院 DPC 情報より、ICD コードの 000-099 妊娠、分娩及び産じょくが主病名で入院した患者数を入力しています。



◆ 分娩数 (例)



◆ 分娩様式



◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
35週	1	1	1	3	-	
36週	13	14	13	25	17	24
37週	67	44	46	52	70	65
38週	100	121	140	132	157	145
39週	108	125	132	142	137	158
40週	110	96	128	113	136	115
41週	34	27	40	39	30	24
42週	1	2	1	-	-	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
1,500-1,999g	-	-	-	1	2	1
2,000-2,499g	27	20	35	26	34	32
2,500g以上	409	410	466	485	511	497

◆ 出産時年齢（例）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
35歳未満	328	324	391	383	394	395
35-39歳	80	85	89	108	121	112
40-44歳	15	21	21	23	33	25
45歳以上	-	-	-	1	-	-

◆ 合併症妊娠（例）

2014年から、日産婦のデータベースより抽出したため、症例数が大幅に増加しています。2014年以前では、合併症妊婦を手作業で集計していたため、正確にカウントできていなかったと考えられます。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
子宮筋腫	8	7	25	20	23
子宮筋腫（核出術後）	-	-	5	2	-
卵巣嚢腫（腫瘍）	1	1	9	11	11
子宮頸癌（含円錐切除後）	4	1	1	8	-
子宮奇形	-	-	-	2	4
甲状腺機能亢進症	1	2	6	5	4
甲状腺機能低下症	1	2	8	7	9
糖尿病（含GDM）	5	5	10	19	16
喘息	5	1	12	11	23
慢性腎炎	-	-	-	1	6
本態性高血圧	1	-	2	3	1
自己免疫疾患	-	-	-	2	3
循環器疾患	1	-	1	2	3
精神科疾患（含てんかん）	-	1	7	6	2
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	-	2	3	1	3
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	1	-	1	3	4
その他	-	-	-	-	4

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
切迫早産・前期破水	58	73	63	61	205
妊娠高血圧症候群	10	13	28	16	9
胎内胎児発育制限	11	28	18	19	24
多胎妊娠	-	-	-	1	3
産後出血	17	26	14	12	-
弛緩出血	-	-	-	-	10
常位胎盤早期剥離	1	-	2	1	-
HELLP症候群	-	-	4	-	-
低置胎盤	-	-	1	3	1
血液型不適合	-	-	7	6	11
羊水過多	-	-	-	1	2
羊水過小	-	-	5	6	6
胎児異常	-	-	1	1	6
その他	-	-	3	-	-

◆ 産科手術他（例）

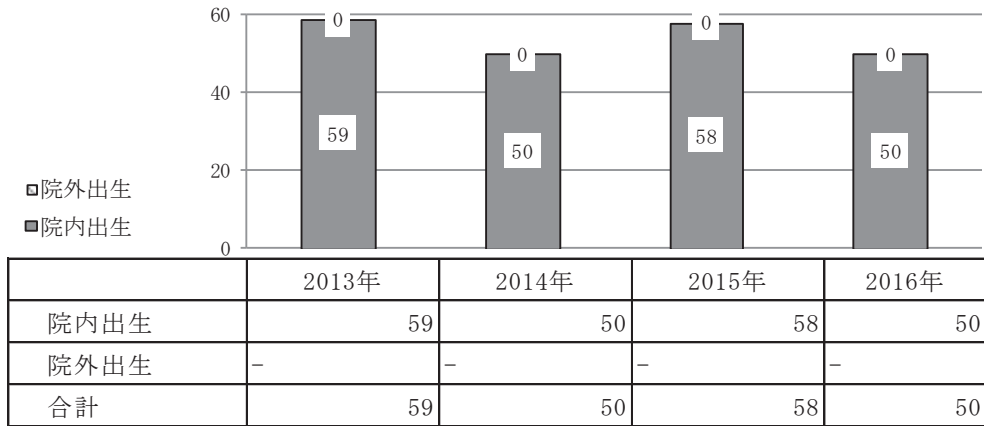
	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
子宮頸管縫縮術	5	2	8	6	14
卵巣嚢腫（腫瘍）摘出術	3	1	-	1	-
産道血腫除去術	2	1	1	2	-
子宮動脈塞栓術	1	-	2	1	-
子宮摘出術	-	-	-	1	-

◆ 輸血治療症例（例）

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
輸血治療症例数	2	2	2	3	1

(2) 新生児部門診療実績

◆ 入院数 (例)



◆ 入院時疾患名 (例)

その他の内 新生児黄疸 17例、低血糖 2例、その他 5例

	2013年	2014年	2015年	2016年
呼吸器疾患	8	18	12	16
心・循環器疾患	-	-	-	2
消化管疾患	4	1	5	4
神経疾患	-	-	-	-
外科疾患	1	-	-	-
染色体異常 奇形症候群	-	-	-	-
感染症	5	1	2	4
その他	41	30	39	24

◆ 出生週数 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年
35週	1	1	-	-
36週	5	11	8	6
37週以上	53	38	50	44

◆ 出生時体重 (例)

	2013年	2014年	2015年	2016年
1,500g~1,749g	-	1	-	-
1,750g~1,999g	-	-	2	-
2,000g~2,249g	5	2	4	1
2,250g~2,499g	4	6	6	5
2,500g以上	50	41	46	44

7. 県内分娩取扱病院

(1) 大和郡山病院

◆ 入院数 (例)

	2014年	2015年	2016年
入院数	563	530	496

◆ 分娩様式

	2014年	2015年	2016年
総分娩数 (例)	433	439	385
経膈分娩 (例)	358	364	322
帝王切開 (例)	77	73	63
うち予定 (例)	51	44	45
うち緊急 (例)	26	29	18
帝王切開率 (%)	17.8	16.6	16.4

◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年
35週未満	-	-	2
35週	1	3	2
36週	7	3	6
37週	45	44	42
38週	102	88	81
39週	120	131	125
40週	131	117	97
41週	29	39	28
42週	-	-	1

◆ 出生体重 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年
1,500-1,999g	2	1	1
2,000-2,499g	26	22	27
2,500g以上	407	402	356

◆ 出産時年齢 (例)

	2014年	2015年	2016年
35歳未満	326	308	292
35-39歳	96	98	74
40-44歳	18	23	19

◆ 合併症妊娠 (例)

	2014年	2015年	2016年
子宮筋腫	3	2	2
子宮筋腫(核出術後)	2	6	-
卵巣嚢腫(腫瘍)	2	-	-
甲状腺機能亢進症	1	-	2
甲状腺機能低下症	2	1	1
糖尿病(含GDM)	3	1	2
喘息	4	2	3
本態性高血圧	1	1	-
循環器疾患	-	-	1
精神科疾患(含てんかん)	-	-	2
ウイルス性肝炎(HA, HB, HCなど)	-	1	-
消化器疾患(虫垂炎、潰瘍性大腸炎など)	1	3	4

◆ 産科合併症 (例 重複あり)

	2014年	2015年	2016年
切迫早産・前期破水	104	99	107
妊娠高血圧症候群	7	11	15
胎内胎児発育制限	5	3	4
多胎妊娠	2	2	2
前置胎盤	-	1	-
産後出血	3	-	2
弛緩出血	-	-	70
常位胎盤早期剥離	1	-	1
HELLP症候群	-	1	-
低置胎盤	-	1	1
血液型不適合	5	1	2
胎児異常	-	5	5

◆ 産科手術他 (例)

	2014年	2015年	2016年
子宮頸管縫縮術	7	3	5
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	2	-	-
産道血腫除去術	2	1	-

◆ 輸血治療症例 (例)

	2014年	2015年	2016年
輸血治療症例	1	-	2

(2) 大和高田市立病院

◆ 入院数 (例)

	2014年	2015年	2016年
入院数	1,296	807	1262

◆ 分娩様式

	2014年	2015年	2016年
総分娩数 (例)	655	616	594
経膈分娩 (例)	499	447	440
帝王切開 (例)	156	169	154
うち予定 (例)	71	73	80
うち緊急 (例)	85	96	74
帝王切開率 (%)	23.8	27.4	25.9

◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年
35週	3	2	5
36週	23	14	17
37週	63	61	56
38週	166	138	134
39週	205	172	180
40週	172	193	167
41週	22	30	35

◆ 出生体重 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年
1,500-1,999g	1	-	1
2,000-2,499g	65	51	34
2,500g以上	588	563	559

◆ 出産時年齢 (例)

	2014年	2015年	2016年
35歳未満	507	475	471
35-39歳	120	116	99
40-44歳	27	24	22
45歳以上	-	1	2

◆ 合併症妊娠 (例)

	2014年	2015年	2016年
子宮筋腫	5	4	8
子宮筋腫(核出術後)	-	-	4
卵巣嚢腫(腫瘍)	-	8	3
子宮頸癌(含円錐切除後)	4	-	4
甲状腺機能亢進症	2	-	5
甲状腺機能低下症	4	-	4
糖尿病(含GDM)	18	9	10
喘息	4	2	3
慢性腎炎	2	-	-
自己免疫疾患	-	-	2
循環器疾患	-	2	2
精神科疾患(含てんかん)	1	-	2
ウイルス性肝炎(HA, HB, HCなど)	4	2	2
消化器疾患(虫垂炎、潰瘍性大腸炎など)	3	1	4

◆ 産科合併症 (例 重複あり)

	2014年	2015年	2016年
切迫早産・前期破水	41	65	76
妊娠高血圧症候群	12	21	7
胎内胎児発育制限	10	8	1
多胎妊娠	4	4	2
前置胎盤	2	1	1
産後出血	40	29	8
常位胎盤早期剥離	5	3	2
低置胎盤	2	2	-
血液型不適合	4	-	4
羊水過小	4	1	-
胎児異常	1	25	2

◆ 産科手術他 (例)

	2014年	2015年	2016年
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	-	-	2
産道血腫除去術	-	2	-
その他	-	56	-

◆ 輸血治療症例 (例)

	2014年	2015年	2016年
輸血治療症例	2	4	1

(3) 高井病院

◆ 入院数 (例)

	2014年	2015年	2016年
入院数	60	96	81

◆ 分娩様式

	2014年	2015年	2016年
総分娩数 (例)	14	71	69
経膈分娩 (例)	13	49	53
帝王切開 (例)	1	22	16
うち予定 (例)	1	14	6
うち緊急 (例)	-	8	10
帝王切開率 (%)	7.1	30.0	23.0

◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年
35週	-	1	-
36週	-	2	2
37週	1	12	5
38週	7	13	12
39週	1	16	19
40週	3	21	20
41週	2	5	11

◆ 出生体重 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年
1,500-1,999g	-	-	1
2,000-2,499g	-	7	4
2,500g以上	14	63	65

◆ 出産時年齢 (例)

	2014年	2015年	2016年
35歳未満	10	59	55
35-39歳	3	11	12
40-44歳	1	1	2

◆ 産科合併症 (例 重複あり)

	2014年	2015年	2016年
切迫早産・前期破水	-	7	10
妊娠高血圧症候群	-	1	3
胎内胎児発育制限	-	1	1
低置胎盤	-	-	1

◆ 産科手術他 (例)

	2014年	2015年	2016年
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	5	-	-
子宮摘出術	5	-	-

(4) 桜井病院

◆ 入院数 (例)

	2014年	2015年	2016年
入院数	688	586	559

◆ 分娩様式

	2014年	2015年	2016年
総分娩数 (例)	460	432	398
経膣分娩 (例)	400	369	329
帝王切開 (例)	60	63	69
うち予定 (例)	42	43	52
うち緊急 (例)	18	20	17
帝王切開率 (%)	13.0	14.5	17.0

◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年
35週未満	-	1	-
35週	-	-	-
36週	7	5	4
37週	68	62	80
38週	70	74	65
39週	123	145	129
40週	144	102	88
41週	48	42	30
42週	-	1	-

◆ 出生体重 (例 死産児は除く)

	2014年	2015年	2016年
2,000-2,499g	17	17	23
2,500g以上	443	415	373

◆ 出産時年齢 (例)

	2014年	2015年	2016年
35歳未満	360	344	304
35-39歳	87	78	83
40-44歳	13	10	9

◆ 合併症妊娠 (例)

	2014年	2015年	2016年
子宮筋腫	9	10	4
子宮筋腫(核出術後)	-	1	-
卵巣嚢腫(腫瘍)	3	6	10
子宮頸癌(含円錐切除後)	1	2	1
甲状腺機能亢進症	4	4	-
甲状腺機能低下症	5	7	10
糖尿病(含GDM)	3	3	4
喘息	2	-	1
精神科疾患(含てんかん)	1	-	4
ウイルス性肝炎(HA, HB, HCなど)	2	-	-
消化器疾患(虫垂炎、潰瘍性大腸炎など)	1	-	2
その他	12	-	4

◆ 産科合併症 (例 重複あり)

	2014年	2015年	2016年
切迫早産・前期破水	7	3	5
妊娠高血圧症候群	5	3	1
胎内胎児発育制限	6	-	-
産後出血	8	11	4
弛緩出血	-	-	4
常位胎盤早期剥離	5	5	1
低置胎盤	1	4	1
血液型不適合	-	6	3
胎児異常	5	8	7

◆ 産科手術他 (例)

	2014年	2015年	2016年
子宮頸管縫縮術	-	1	-
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	-	10	-

(5) 奈良県西和医療センター

◆ 入院数 (例)

産婦人科で入院した件数

	2015年	2016年
入院数	137	367

◆ 合併症妊娠 (例)

	2015年	2016年
子宮筋腫	1	1
子宮頸癌(含円錐切除後)	1	-
甲状腺機能低下症	2	-

◆ 分娩様式

	2015年	2016年
総分娩数 (例)	37	102
経膣分娩 (例)	28	81
帝王切開 (例)	9	21
うち予定 (例)	6	9
うち緊急 (例)	3	12
帝王切開率 (%)	24.3	20.5

◆ 産科合併症 (例 重複あり)

	2015年	2016年
切迫早産・前期破水	-	8
妊娠高血圧症候群	-	2
産後出血	9	-
弛緩出血		34

◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

	2015年	2016年
36週	-	4
37週	7	12
38週	7	28
39週	11	28
40週	11	25
41週	1	4

◆ 出生体重 (例 死産児は除く)

	2015年	2016年
2,000-2,499g	1	8
2,500g以上	36	94

◆ 出産時年齢 (例)

	2015年	2016年
35歳未満	29	70
35-39歳	4	28
40-44歳	4	4

(6) 生駒市立病院

※2015年についてはH27.6.1(開設日)～H27.12.31のデータ

◆ 入院数 (例)

	2015年	2016年
入院数	67	109

◆ 分娩様式

	2015年	2016年
総分娩数 (例)	22	109
経膈分娩 (例)	18	89
帝王切開 (例)	4	20
うち予定 (例)	2	16
うち緊急 (例)	2	4
帝王切開率 (%)	18.0	18.3

◆ 分娩週数 (例 死産児は除く)

	2015年	2016年
36週	-	1
37週	-	6
38週	9	31
39週	8	28
40週	4	33
41週	1	10

◆ 出生体重 (例 死産児は除く)

	2015年	2016年
2,000-2,499g	1	3
2,500g以上	21	106

◆ 出産時年齢 (例)

	2015年	2016年
35歳未満	15	67
35-39歳	4	35
40-44歳	3	7

◆ 合併症妊娠 (例)

	2015年	2016年
子宮筋腫	-	1
子宮筋腫(核出術後)	-	2
糖尿病(含GDM)	-	1

◆ 産科合併症 (例 重複あり)

	2015年	2016年
切迫早産・前期破水	1	3
妊娠高血圧症候群	1	2
産後出血	-	1
羊水過多	-	7
羊水過小	-	8
胎児異常	-	1

◆ 産科手術他 (例)

	2015年	2016年
卵巣嚢腫(腫瘍)摘出術	3	6
子宮摘出術	7	3

8. 県内分娩取扱診療所

◆ 入院数（例）

	2015年	2016年
入院数	2,405	1,724

◆ 分娩様式

	2015年	2016年
総分娩数	5,830	5,418
経膣分娩	4,949	4,563
帝王切開	881	848
うち予定	538	483
うち緊急	343	364
帝王切開率（%）	15.1	15.7

◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2015年	2016年
35週未満	3	3
35週	15	14
36週	98	89
37週	458	438
38週	1,172	1,133
39週	1,800	1,714
40週	1,660	1,513
41週	536	489
42週	29	12
42週以上	2	-

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2015年	2016年
1,500-1,999g	10	2
2,000-2,499g	280	244
2,500g以上	5,163	5,162

◆ 出産時年齢（例）

	2015年	2016年
35歳未満	4,118	4,043
35-39歳	1,158	1,171
40-44歳	180	207
45歳以上	2	-

◆ 合併症妊娠（例）

	2015年	2016年
子宮筋腫	58	103
子宮筋腫（核出術後）	18	18
卵巣嚢腫（腫瘍）	26	20
子宮頸癌（含円錐切除後）	13	14
子宮奇形	3	7
甲状腺機能亢進症	13	12
甲状腺機能低下症	21	22
糖尿病（含GDM）	9	20
喘息	27	28
本態性高血圧	3	-
ITP	-	2
自己免疫疾患	1	-
循環器疾患	3	-
精神科疾患（含てんかん）	16	13
ウイルス性肝炎（HA, HB, HCなど）	13	9
消化器疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎など）	8	2
その他	1	1

◆ 産科合併症（例 重複あり）

	2015年	2016年
切迫早産・前期破水	268	455
妊娠高血圧症候群	84	77
胎内胎児発育制限	41	38
多胎妊娠	2	4
前置胎盤	3	2
産後出血	168	165
常位胎盤早期剥離	8	12
HELLP症候群	3	1
低置胎盤	5	17
血液型不適合	18	14
羊水過多	11	33
羊水過小	26	47
胎児異常	24	6
その他	8	13

◆ 産科手術他（例）

	2015年	2016年
子宮頸管縫縮術	23	4
卵巢嚢腫(腫瘍)摘出術	7	2
産道血腫除去術	11	6
その他	5	1

◆ 輸血治療症例（例）

	2015年	2016年
輸血治療症例	14	8

9. 県内分娩取扱助産所

◆ 入院数（例）

	2015年	2016年
入院数	238	216

◆ 分娩様式

	2015年	2016年
総分娩数	238	216
経膈分娩	238	216
帝王切開	-	-

◆ 分娩週数（例 死産児は除く）

	2015年	2016年
37週	14	-
38週	35	10
39週	94	43
40週	87	69
41週	7	84
42週	1	10

◆ 出生体重（例 死産児は除く）

	2015年	2016年
2,000-2,499g	1	3
2,500g以上	237	213

◆ 出産時年齢（例）

	2015年	2016年
35歳未満	183	141
35-39歳	48	67
40-44歳	7	9

◆ 合併症妊娠（例）

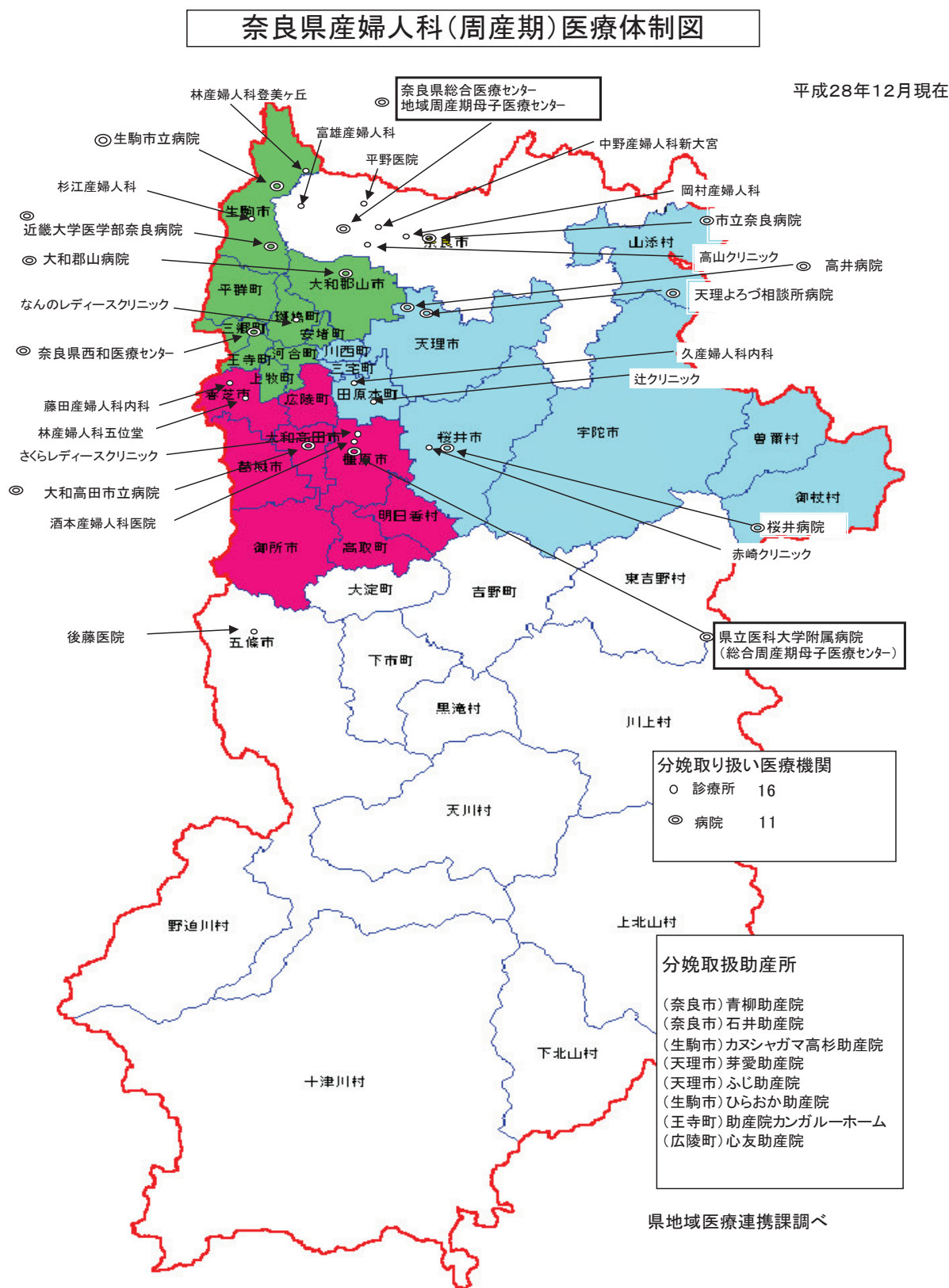
	2015年	2016年
子宮筋腫	3	1
甲状腺機能亢進症	1	-
精神科疾患(含てんかん)	1	-

◆ 産科合併症（例 重複あり）

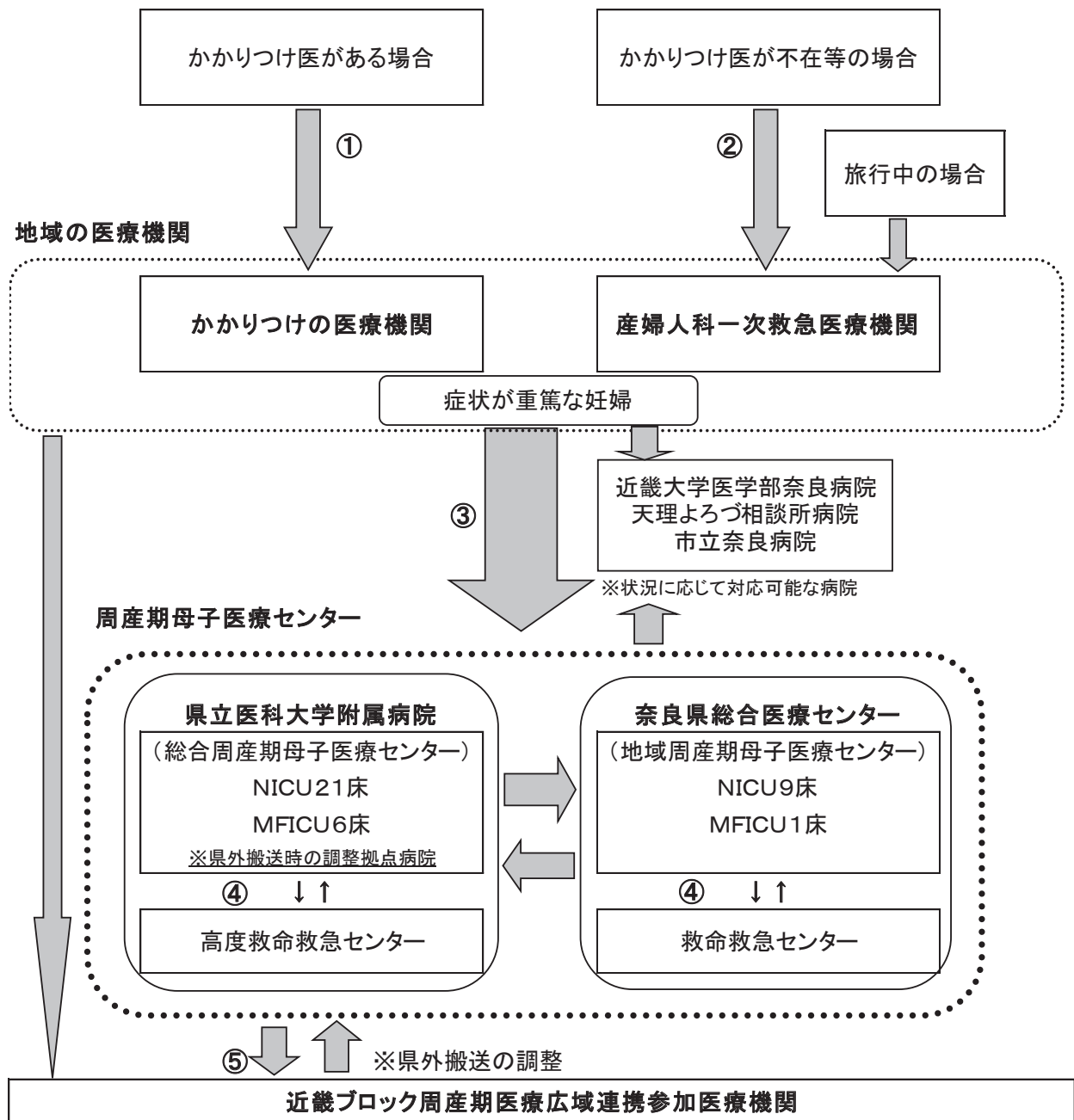
	2015年	2016年
切迫早産・前期破水	8	8
胎内胎児発育制限	2	-
その他	-	1

III. 参考資料

1. 奈良県産婦人科（周産期）医療体制図



2. 母体搬送連携イメージ

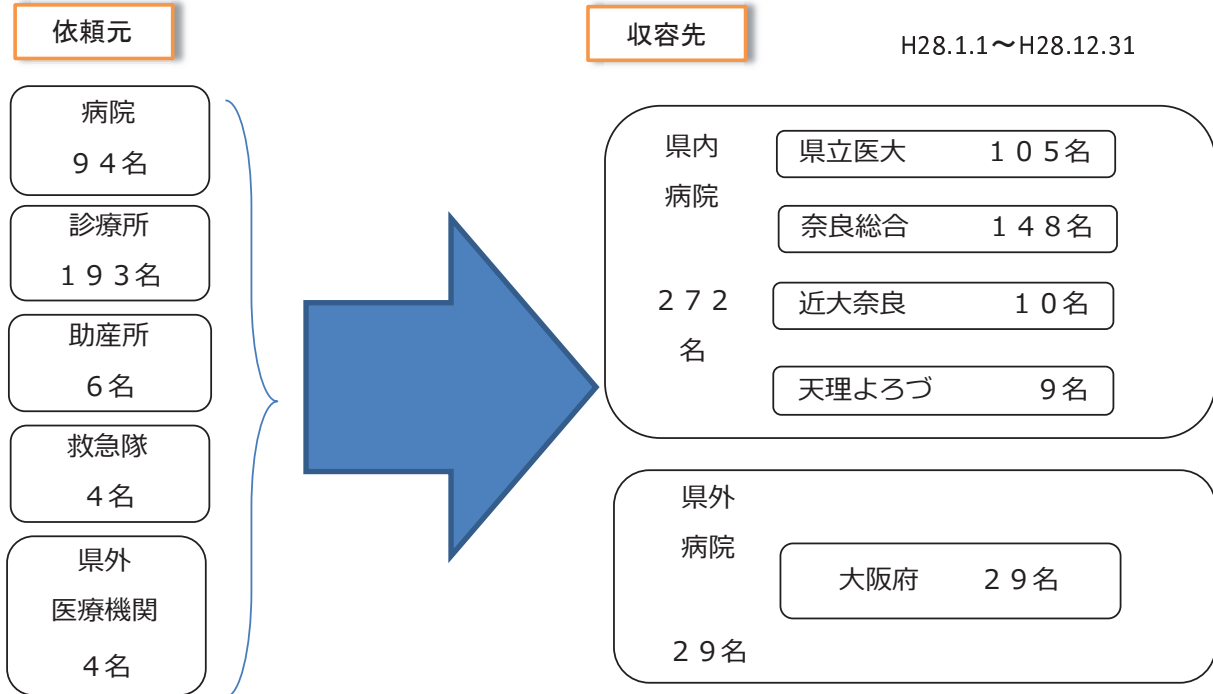


- ① かかりつけ医がまず対応
- ② かかりつけ医がないもしくは対応できない場合には産婦人科一次救急医療機関が対応
- ③ かかりつけ医、産婦人科一次救急医療機関等地域の医療機関で対応ができない症状の場合は周産期母子医療センターが対応
- ④ 周産期母子医療センターにおいて産科合併症以外の合併症等の重篤な症状の場合、必要に応じて併設する救命救急センターと連携し、対応
- ⑤ 万一母体の県外搬送が必要になった場合、近隣府県の広域搬送調整拠点病院を通じて、早急に県外搬送先を選定し、搬送

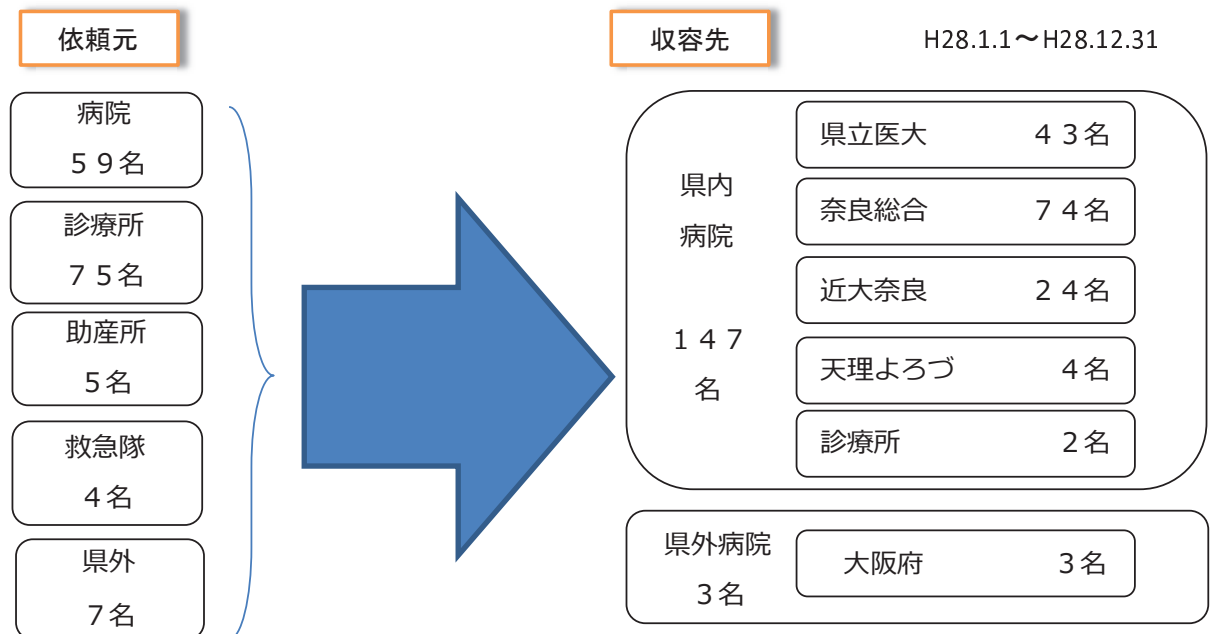
3. 母体・新生児搬送状況

奈良県周産期医療情報システムを利用した搬送状況

◆母体搬送



◆新生児搬送



4. 産婦人科一次救急体制参加医療機関

産婦人科一次救急体制参加医療機関一覧

(地域別、五十音順)
(平成28年12月31日現在)

地域	医療機関名	住所及び電話番号
北和	岡村産婦人科	奈良市西木辻町30 0742-23-3566
	きよ女性クリニック	奈良市石木町50-1 0742-53-0411
	市立奈良病院	奈良市東紀寺町1-50-1 0742-24-1251
	杉江産婦人科	生駒市本町1-11-3 0743-75-0123
	富雄産婦人科	奈良市三松4-878-1 0742-43-0381
	中野産婦人科	奈良市四条大路1-3-57 0742-30-0039
	なんのレディースクリニック	生駒郡斑鳩町興留5-14-8 0745-75-5623
中南和	大和郡山病院	大和郡山市朝日町1-62 0743-53-1111
	赤崎クリニック	桜井市大字谷111 0744-43-2468
	酒本産婦人科	橿原市内膳町4-4-26 0744-25-3389
	桜井病院	桜井市桜井973 0744-43-3541
	内藤医院	桜井市桜井996 0744-42-2138
	林産婦人科五位堂医院	香芝市真美ヶ丘-丁目13-27 0745-71-5201

5. 産婦人科対応マニュアル

産婦人科救急対応マニュアル（抜粋）

1. 一次救急編

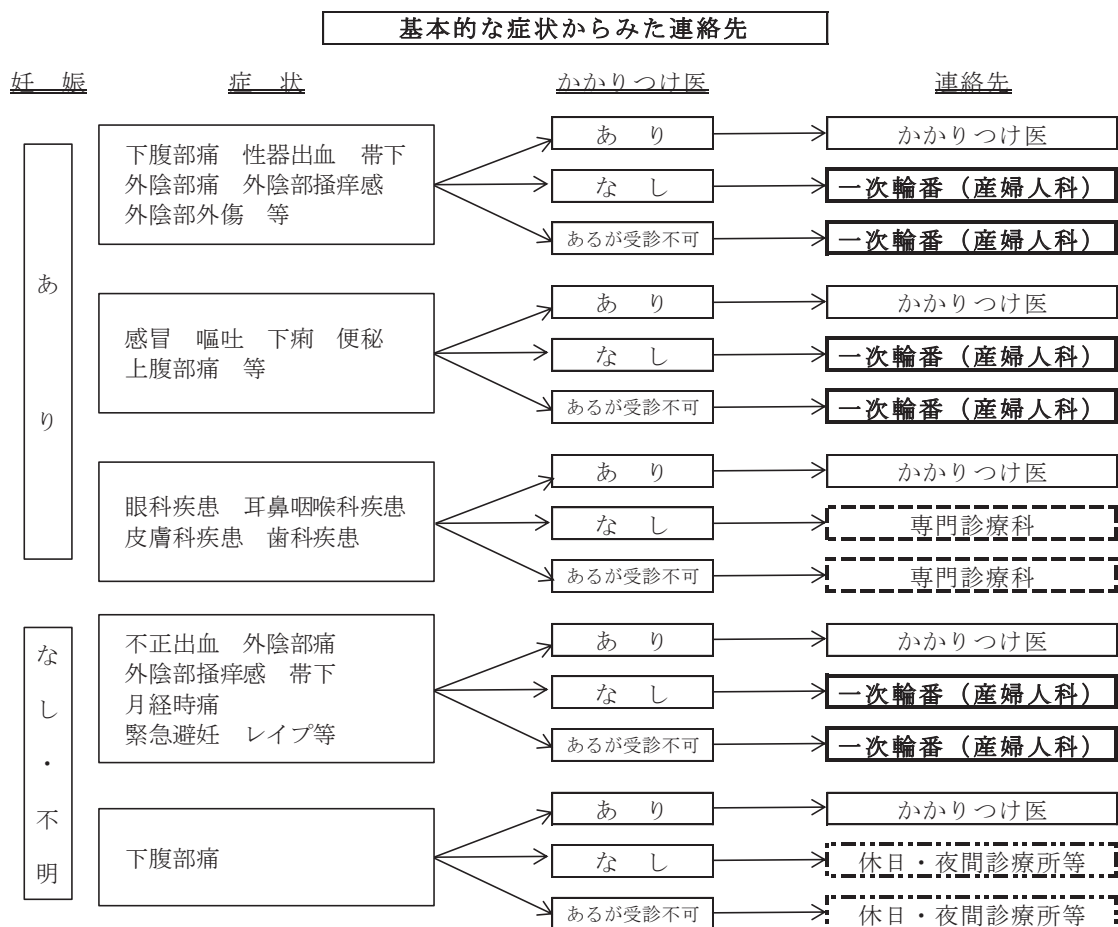
このマニュアルは、休日・夜間等に救急要請や受診要請があった際に、産婦人科の受診が必要か、その他の診療科の受診が必要かの判断をするための、目安とするためのチェックリストとして作成いたしました。

このマニュアルは救急隊が患者と直接の電話対応に使用したり、医事受付担当者や守衛等が休日・夜間等に受付を行なう際に最低限必要な情報を確認し、診療科の判断が出来るように作成しています。

実際は医事受付担当者等が患者との対応を行なう例もありますが、本来患者との電話対応は医師、看護師が行なうことが望ましいのはいままでのないため、医事受付担当者等は医師、看護師等との連絡を密に取った上で対応に当たるよう努めてください。

なお、マニュアルの使用前に一般救急として必要な項目の聞き取り等は、別に行なってください。その結果、産婦人科受診が必要と認められた場合にご使用いただきますようお願いいたします。

また、このマニュアルにかかわらず、緊急度が高い際にはそれぞれ関係者の判断により対処いただきますようお願いいたします。



6. 分娩取扱医療機関一覧

平成28年12月31日現在

医療機関名		医療圏	住所
1	奈良県総合医療センター	奈良	631-0846 奈良市平松1丁目30番1号
2	市立奈良病院	奈良	630-8305 奈良市東紀寺町1-50-1
3	高井病院	東和	632-0006 天理市蔵之庄町470-8
4	天理よろづ相談所病院	東和	632-0015 天理市三島町200番地
5	桜井病院	東和	633-0091 桜井市桜井973
6	大和郡山病院	西和	639-1013 大和郡山市朝日町1-62
7	近畿大学医学部奈良病院	西和	630-0227 生駒市乙田町1248番-1
8	生駒市立病院	西和	630-0213 生駒市東生駒1-6-2
9	奈良県西和医療センター	西和	636-0802 生駒郡三郷町三室1丁目14-16
10	県立医科大学附属病院	中和	634-0813 橿原市四条町840
11	大和高田市立病院	中和	635-0094 大和高田市磯野北町1番1号
病院計		11	
12	高山クリニック	奈良	630-8031 奈良市柏木町190-5
13	富雄産婦人科	奈良	631-0074 奈良市三松4丁目878番1
14	平野医院	奈良	631-0821 奈良市西大寺東町2-1-52
15	岡村産婦人科	奈良	630-8325 奈良市西木辻町30番地の10
16	中野産婦人科新大宮	奈良	630-8014 奈良市四条大路1丁目3-57
17	赤崎クリニック	東和	633-0053 桜井市大字谷111
18	久産婦人科	東和	636-0304 磯城郡田原本町十六面23番地の1
19	辻クリニック	東和	636-0300 磯城郡田原本町547
20	なんのレディースクリニック	西和	636-0123 生駒郡斑鳩町興留5丁目14-8
21	杉江産婦人科	西和	630-0257 生駒市元町1丁目11-3
22	林産婦人科登美ヶ丘	西和	630-0115 生駒市鹿畑町55番1
23	酒本産婦人科	中和	634-0804 橿原市内膳町4-4-26
24	藤田産婦人科	中和	639-0251 香芝市逢坂7丁目130番地の1号
25	林産婦人科五位堂	中和	639-0223 香芝市真美ヶ丘1-13-27
26	さくらレディースクリニック	中和	634-0803 橿原市上品寺町528
27	後藤医院	南和	637-0041 五條市本町1-7-23
診療所計		16	
28	青柳助産院	奈良	630-8036 奈良市五条畑1丁目17番10-1号
29	石井助産院	奈良	630-8107 奈良市奈保町5番21号
30	カヌシャガマ高杉助産院	西和	630-0136 生駒市白庭台3丁目15番10
31	芽愛助産院	東和	632-0094 天理市前裁町274-1
32	ふじ助産院	東和	632-0004 天理市樺本町2071-8
33	ひらおか助産院	西和	630-0101 生駒市高山町7747番1
34	助産院カンガルーホーム	西和	636-0003 北葛城郡王寺町久度2丁目12番26号
35	心友助産院	中和	635-0823 北葛城郡広陵町三吉 赤部 260-3
助産所計		8	

地域医療連携課調べ

7. 奈良県周産期医療協議会委員名簿

奈良県周産期医療協議会委員名簿

H28.12.31現在

区 分	役 職	氏 名
医科大学 (総合周産期 母子医療センター)	公立大学法人奈良県立医科大学 産婦人科学教室教授	小林 浩
	公立大学法人奈良県立医科大学 総合周産期母子医療センター教授	西久保 敏也
関係団体	奈良県産婦人科医会長	赤崎 正佳
地域周産期 母子医療センター	奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター 周産期母子医療センター長 兼産婦人科部長	喜多 恒和
	奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター 新生児集中治療室部長	箕輪 秀樹
病 院	市立奈良病院 産婦人科部長	原田 直哉
	天理よろづ相談所病院 産婦人科部長	藤原 潔
	近畿大学医学部奈良病院 産婦人科教授	大井 豪一
消 防	奈良県消防長会救急部会長 (奈良県広域消防組合消防本部救急部長)	丹治 準治
奈 良 県	医療政策部長	林 修一郎

奈良県周産期医療年報

平成30年（2018年）3月

発行 奈良県周産期医療協議会